

参考資料 2

【市民アンケート調査結果】

(仙台市、浜松市、四日市市)

安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査

～仙台市民版～

集 計 結 果

目 次

1. 調査の概要	1
1) 調査の目的	1
2) 調査対象	1
3) 主な調査項目	1
4) 調査方法	1
5) 調査実施期間	1
2. 結果の概要	2
1) 回収率	2
2) 回答者の属性	2
3) 調査結果の概要	2
3. 単純集計結果	3
問1 被災の体験	3
問2 地域で不安と感じる項目	4
問3 災害時に自分を守るための取組み	5
問4 マップのわかりやすさ	6
問5 マップを見た後の意識の変化	7
問6 マップを見た後の行動の変化	8
問7 行政による取組み	9
問8 イベントへの参加	10
問9 地域活動への参加意欲	11
問10 地域が行うべき活動	12
問11 地域活動への行政の支援	13
問12 地域活動の範囲	14
問19 自由意見	15
4. アンケート票【仙台市民版】	16

1. 調査の概要

1) 調査の目的

今後の我が国における安全・安心まちづくりの展開に役立てるために、先進的自治体（仙台市、浜松市、四日市市）の市民における「地域での安全・安心なまちづくりに関する活動状況」や「地域コミュニティへの参加意識」などを把握することを目的として実施した。

2) 調査対象

- 仙台市民を対象とした。
- 市内在住（満 20 歳以上）から 1,500 人を抽出した。

3) 主な調査項目

- 地域との関わりに関する認識・地域活動への参加状況
- ハザードマップの認識・理解の状況
- 安全安心まちづくりに向けた地域活動への参加意識とニーズ
- 行政の取組みに対するニーズ

4) 調査方法

- 郵送配布・郵送回収

5) 調査実施期間

- 平成 20 年 12 月 22 日（月） ～ 平成 21 年 1 月 7 日（水）
- 最終集計日：平成 21 年 1 月 21 日

2. 結果の概要

1) 回収率

配信数	回収数	回収率
1,500	555	37.0%

2) 回答者の属性

性別	回答数	構成率
男	273	49.2%
女	281	50.6%
無回答	1	0.2%

年齢	回答数	構成率
20代	47	8.5%
30代	76	13.7%
40代	89	16.0%
50代	105	18.9%
60代	126	22.7%
70代以上	112	20.2%

居住地	回答数	構成率
仙台市青葉区	139	25.0%
仙台市泉区	124	22.3%
仙台市太白区	131	23.6%
仙台市宮城野区	91	16.4%
仙台市若林区	67	12.1%
無回答	3	0.5%

職業	回答数	構成率
会社員	163	29.4%
公務員	23	4.1%
自営業	40	7.2%
パート・アルバイト	61	11.0%
主婦	115	20.7%
学生	12	2.2%
無職	113	20.4%
その他	22	4.0%
無回答	6	1.1%

家族構成	回答数	構成率
単身(一人世帯)	69	12.4%
夫婦のみ	147	26.5%
二世帯世帯	237	42.7%
三世帯世帯	36	6.5%
その他	61	11.0%
無回答	5	0.9%

3) 調査結果の概要

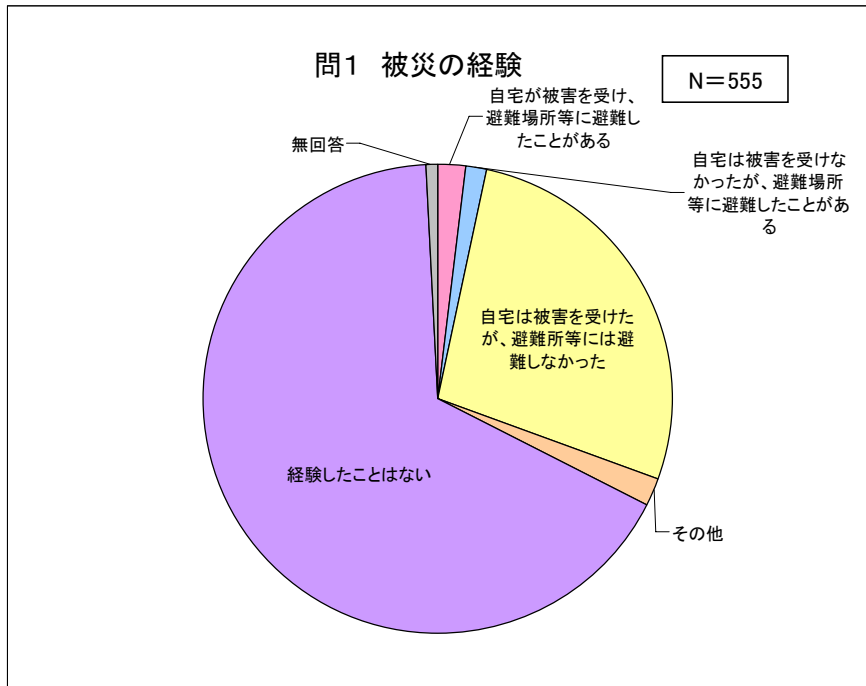
- ・全体の約1/3に被災体験があり、そのうち「自宅は被害を受けたが避難しなかった」との回答が多い。
- ・災害時に不安に感じることについては、「災害時の行動の仕方がわからない」との回答が多い。
- ・全体の約8割が災害時に自分を守るための取組みを行っており、その内容として「食料等の準備」や「避難場所の設定」を行っているとの回答が多い。
- ・ハザードマップは、全体の約7割が見たことがないと回答している。マップ別では、「地震ハザードマップ」について見たことがあると最も多く回答している。
- ・ハザードマップを見た後の意識の変化として、「災害意識の向上」「具体的な備え方についての情報の必要性を感じたこと」及び「避難場所等への関心の向上」をあげる回答が多い。
- ・ハザードマップを見た後の行動の変化として、「避難場所の設定を行った」との回答が多い。
- ・災害に対して必要と考えられる行政の取組みとして、「地域の危険性に関する情報の公表」をあげる回答が多い。
- ・全体の約3割が安全・安心に関するイベントに参加したことがあると回答しており、その内容として「自治会等による防災訓練」をあげる回答が多い。
- ・地域が主体となった安全・安心まちづくりの活動については、全体の約3/4が参加したい意向(積極的に参加・できれば参加)を示している。また、その内容として、「災害時要援護者の支援」「危険箇所・防災対策の学習」「地域の危険箇所の点検」をあげる回答が多い。
- ・安全・安心まちづくりの地域活動に対する行政支援としては、「地域の危険性に対する情報提供」が必要との意見が多い。
- ・安全・安心まちづくりの地域活動の範囲としては、「町内会・自治会」の範囲をあげる回答が多い。

3. 単純集計結果

問1. 被災の体験

(単一回答)

- 「被災を経験したことはない」との回答が全体の約2/3 (約67%) を占めている。
- また、「自宅は被害を受けたが避難しなかった」と回答した人が約27%を占めている。



被災の体験	回答数	回答率
自宅が被害を受け、避難場所等に避難したことがある	11	2.0%
自宅は被害を受けなかったが、避難場所等に避難したことがある	8	1.4%
自宅は被害を受けたが、避難所等には避難しなかった	150	27.0%
その他	12	2.2%
経験したことはない	369	66.5%
無回答	5	0.9%

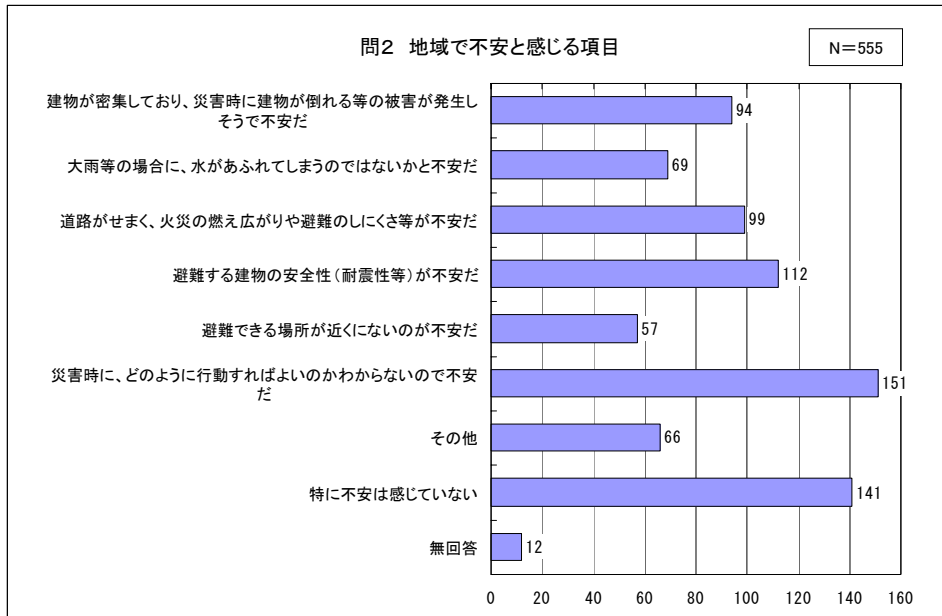
【その他の主な被災の体験の内容】

- 実家や社宅が被災を受けた
 - 店舗の陳列物が倒れて被害を受けた
- 等

問2. 地域で不安と感ずる項目

(複数回答)

- 「災害時の行動の仕方がわからない」という意見が最も多い(約27%)。
- 次いで、「避難する建物の安全性(約20%)」「道路の狭隘(18%)」「建物の密集(17%)」に不安を感じている意見が多い。
- 一方で、全体の約1/4(約25%)が「特に不安は感じていない」と回答している。



地域で不安と感ずる項目	回答数	回答率
建物が密集しており、災害時に建物が倒れる等の被害が発生しそうで不安だ	94	16.9%
大雨等の場合に、水があふれてしまうのではないかと不安だ	69	12.4%
道路がせまく、火災の燃え広がりや避難のしにくさ等が不安だ	99	17.8%
避難する建物の安全性(耐震性等)が不安だ	112	20.2%
避難できる場所が近くにないのが不安だ	57	10.3%
災害時に、どのように行動すればよいかわからないので不安だ	151	27.2%
その他	66	11.9%
特に不安は感じていない	141	25.4%
無回答	12	2.2%

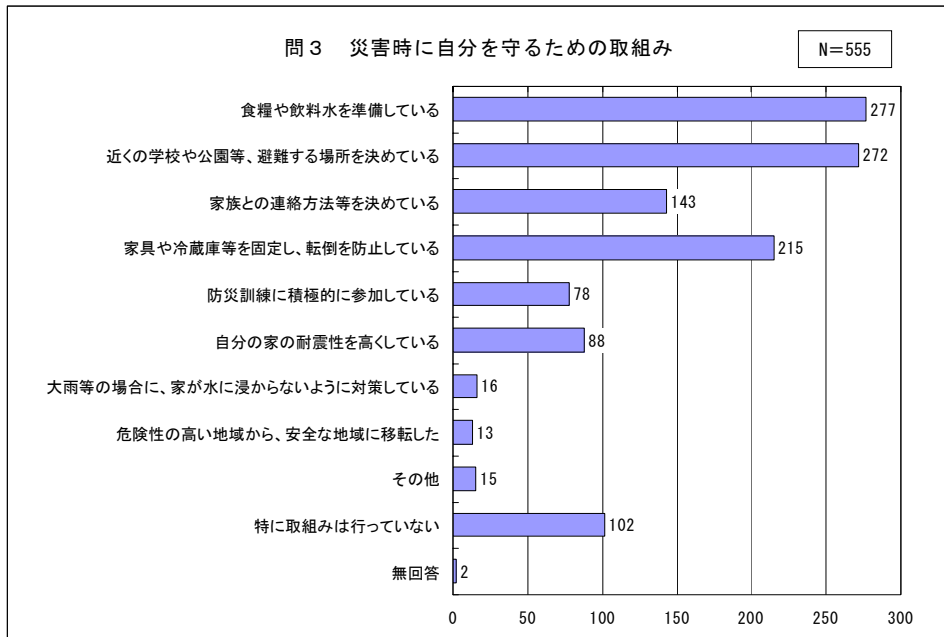
【その他の主な地域で不安と感ずる内容】

- 地域住民の連携がうまくできるか
 - 高齢者・障害者等のため、避難所等への避難ができるか
 - 土砂崩れの災害
 - 避難後の生活(ライフラインの復旧)
 - 自宅の老朽化等に伴う安全性・耐震性
- 等

問3. 災害時に自分を守るための取組み

(複数回答)

- 「特に取組みは行っていない」との回答は約 18%であることから、全体の約 8 割が災害時のための取組みを行っている。
- 取組みとしては、全体の約半数が「食料等の準備 (約 50%)」「避難場所の設定 (約 49%)」を行っており、避難に関する意識が高い傾向がある。
- 次いで約 39%が「家具等の転倒防止」を行っていると回答している。
- 最重要とする取組についても、概ね上記と同様の傾向であるが、「食糧や飲料水の準備」が最重要とする意見が比較的多くなっている。



災害時に自分を守るための取組み	回答数	回答率	最も重要
食糧や飲料水を準備している	277	49.9%	131
近くの学校や公園等、避難する場所を決めている	272	49.0%	88
家族との連絡方法等を決めている	143	25.8%	63
家具や冷蔵庫等を固定し、転倒を防止している	215	38.7%	77
防災訓練に積極的に参加している	78	14.1%	10
自分の家の耐震性を高めている	88	15.9%	32
大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策している	16	2.9%	3
危険性の高い地域から、安全な地域に移転した	13	2.3%	8
その他	15	2.7%	7
特に取組みは行っていない	102	18.4%	102
無回答	2	0.4%	34

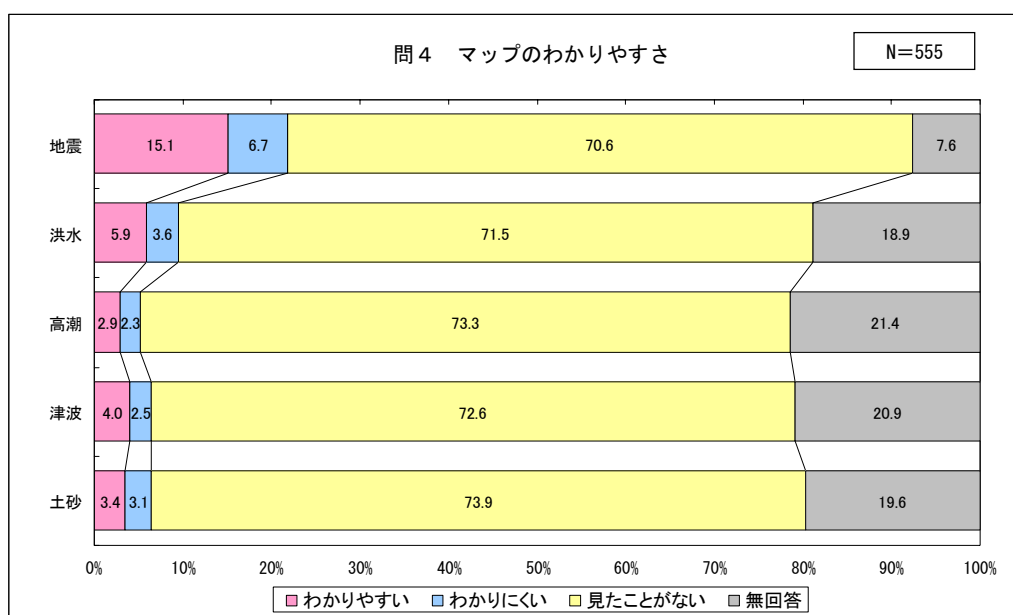
【その他の主な災害時に自分を守るための取組みの内容】

- 寝室の安全性確保 (家具を置かない等)
- 避難時の携帯物の準備 (避難用袋、懐中電灯、ラジオ等)
- 町内会の防災活動 等

問4. マップのわかりやすさ

(単一回答)

- すべてのハザードマップで「見たことがない」との回答が最も多く、全体の約7割超を占めている。
- マップ別では、地震ハザードマップについて見たことがあると最も多く回答している（約22%）。
- 「わかりやすい」との回答は、「わかりにくい」との回答よりも多い傾向となっている。



マップのわかりやすさ	地震		洪水		高潮		津波		土砂	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
わかりやすい	84	15.1%	33	5.9%	16	2.9%	22	4.0%	19	3.4%
わかりにくい	37	6.7%	20	3.6%	13	2.3%	14	2.5%	17	3.1%
見たことがない	392	70.6%	397	71.5%	407	73.3%	403	72.6%	410	73.9%
無回答	42	7.6%	105	18.9%	119	21.4%	116	20.9%	109	19.6%

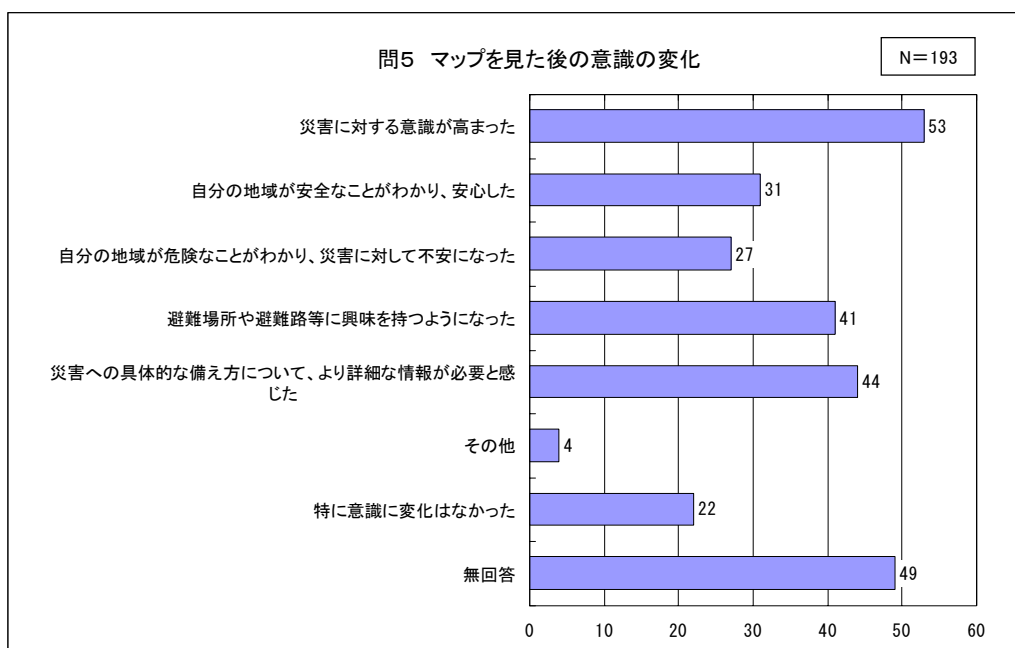
【主なわかりにくいと感じる内容や改善すると良い内容】

- 自分の家の位置がよくわからない
- 広域マップと近隣マップがあるとよい
- ハザードマップの入手方法がわからない
- 危険度や想定される被害状況がわかりにくい
- 実際に避難する際の避難経路や避難所がわかりにくい 等

問5. マップを見た後の意識の変化

(複数回答)

- 「災害に対する意識が高まった」とする回答が最も多くなっており（約 28%）、「特に意識に変化はなかった」とする回答の約 2.4 倍となっている。
- 次いで、「具体的な備えに対する詳細情報が必要（約 23%）」「避難場所等への興味を持つようになった（約 21%）」との回答が多くなっている。



マップを見た後の意識の変化	回答数	回答率
災害に対する意識が高まった	53	27.5%
自分の地域が安全なことがわかり、安心した	31	16.1%
自分の地域が危険なことがわかり、災害に対して不安になった	27	14.0%
避難場所や避難路等に興味を持つようになった	41	21.2%
災害への具体的な備え方について、より詳細な情報が必要と感じた	44	22.8%
その他	4	2.1%
特に意識に変化はなかった	22	11.4%
無回答	49	25.4%

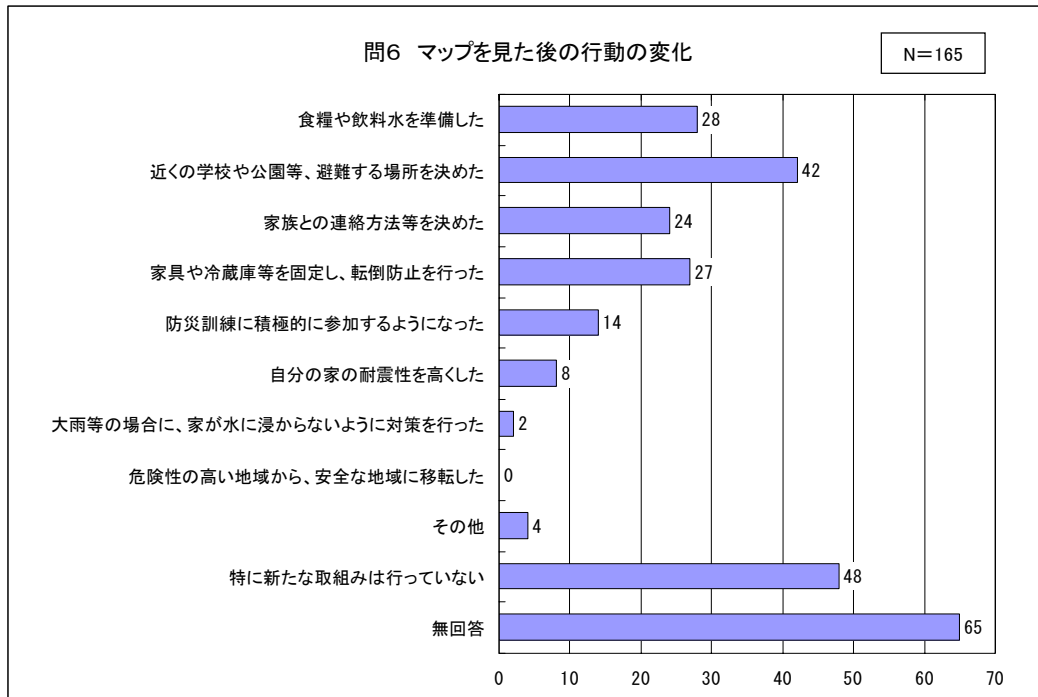
【その他の主なマップを見た後の意識の変化の内容】

- 町内会全体での対応方針等の必要性について意識が高まった
- 地域の情報やマップ情報の必要性が高まった 等

問6. マップを見た後の行動の変化

(複数回答)

- 「特に新たな取組みは行っていない」とする回答が最も多い(約 29%)。
- 取組みとしては、「避難場所の設定(約 26%)」が多く「食料等の準備(約 17%)」など、問3と同様に避難に関する意識が高い傾向がある。



マップを見た後の行動の変化	回答数	回答率
食糧や飲料水を準備した	28	17.0%
近くの学校や公園等、避難する場所を決めた	42	25.5%
家族との連絡方法等を決めた	24	14.5%
家具や冷蔵庫等を固定し、転倒防止を行った	27	16.4%
防災訓練に積極的に参加するようになった	14	8.5%
自分の家の耐震性を高めた	8	4.8%
大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策を行った	2	1.2%
危険性の高い地域から、安全な地域に移転した	0	0.0%
その他	4	2.4%
特に新たな取組みは行っていない	48	29.1%
無回答	65	39.4%

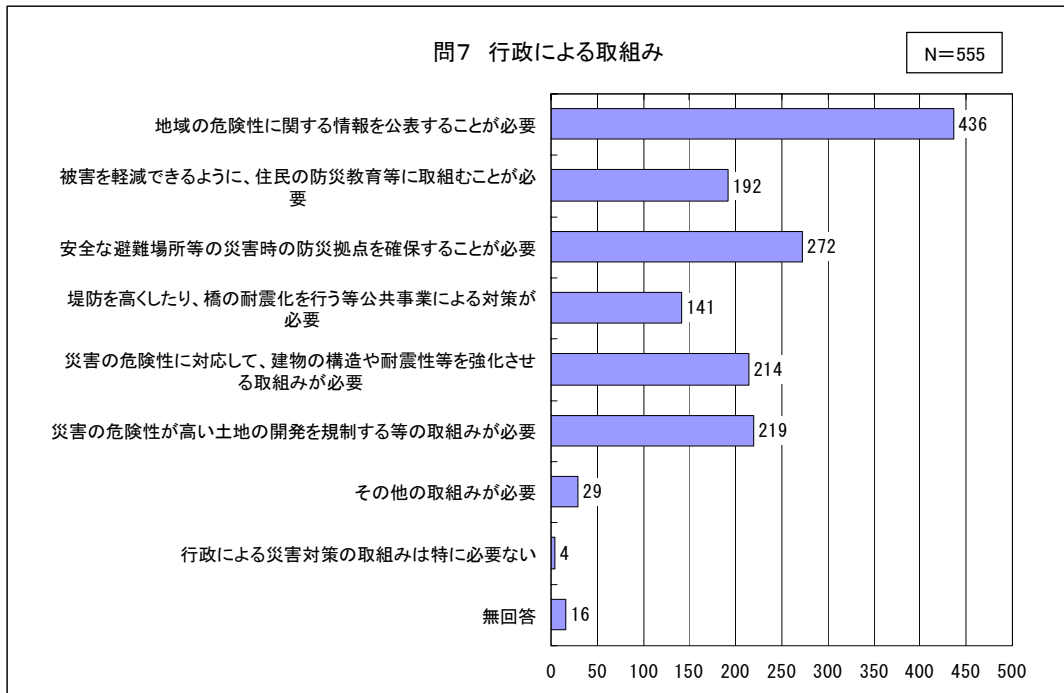
【その他の主なマップを見た後の行動の変化の内容】

- 寝室まわりの安全性の強化
 - 避難時の携帯物の確認
- 等

問7. 行政による取組み

(複数回答)

- 「地域の危険性に関する情報の公表が必要」との回答が最も多く、全体の約8割（約79%）を占めている。
- 次いで、「避難場所等の確保が必要（約49%）」とする意見が多く、「土地の開発規制（約40%）」「建物の耐震性等の強化（約39%）」「防災教育（約35%）」が必要との意見も多くなっている。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向となっている。



行政による取組み	回答数	回答率	最も重要
地域の危険性に関する情報を公表することが必要	436	78.6%	234
被害を軽減できるように、住民の防災教育等に取組むことが必要	192	34.6%	59
安全な避難場所等の災害時の防災拠点を確保することが必要	272	49.0%	81
堤防を高くしたり、橋の耐震化を行う等公共事業による対策が必要	141	25.4%	24
災害の危険性に対応して、建物の構造や耐震性等を強化させる取組みが必要	214	38.6%	62
災害の危険性が高い土地の開発を規制する等の取組みが必要	219	39.5%	50
その他の取組みが必要	29	5.2%	19
行政による災害対策の取組みは特に必要ない	4	0.7%	4
無回答	16	2.9%	22

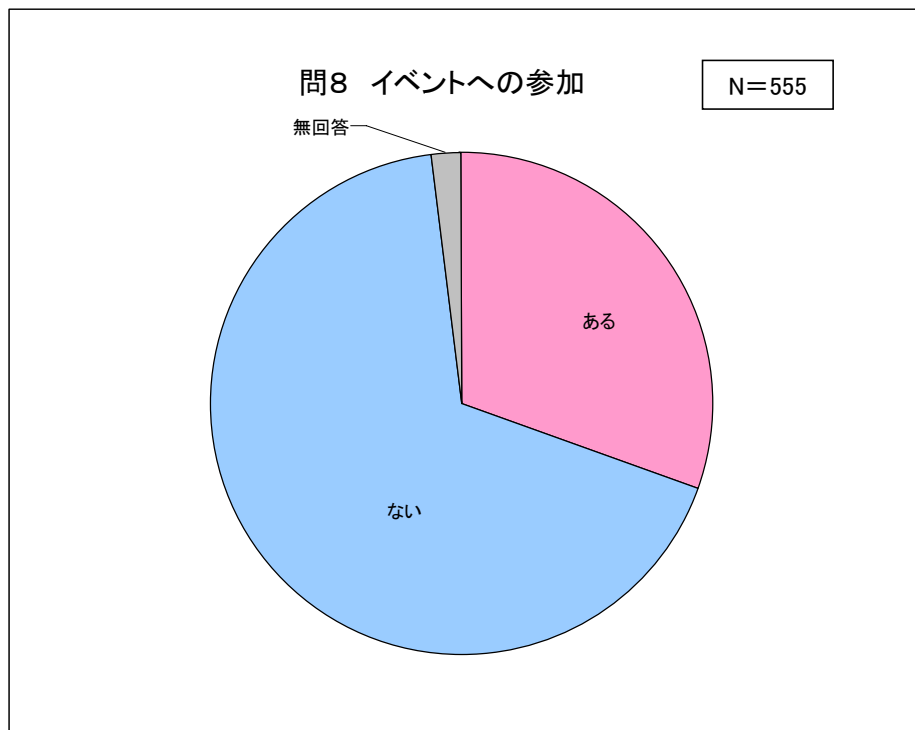
【その他の主な必要と考える行政による取組みの内容】

- 防災の活動組織の構築や災害発生時の物資提供・医療体制等のシステムのネットワーク化
- 災害後の支援の強化（ライフライン、食料・物資の備蓄）
- 地域の消防団・町内会と連携した防災講習・訓練 等

問8. イベントへの参加

(単一回答)

■全体の約3割（約31%）が、防災訓練等の安心・安全に関するイベントに参加したことがあると回答している。



イベントへの参加	回答数	回答率
ある	170	30.6%
ない	374	67.4%
無回答	11	2.0%

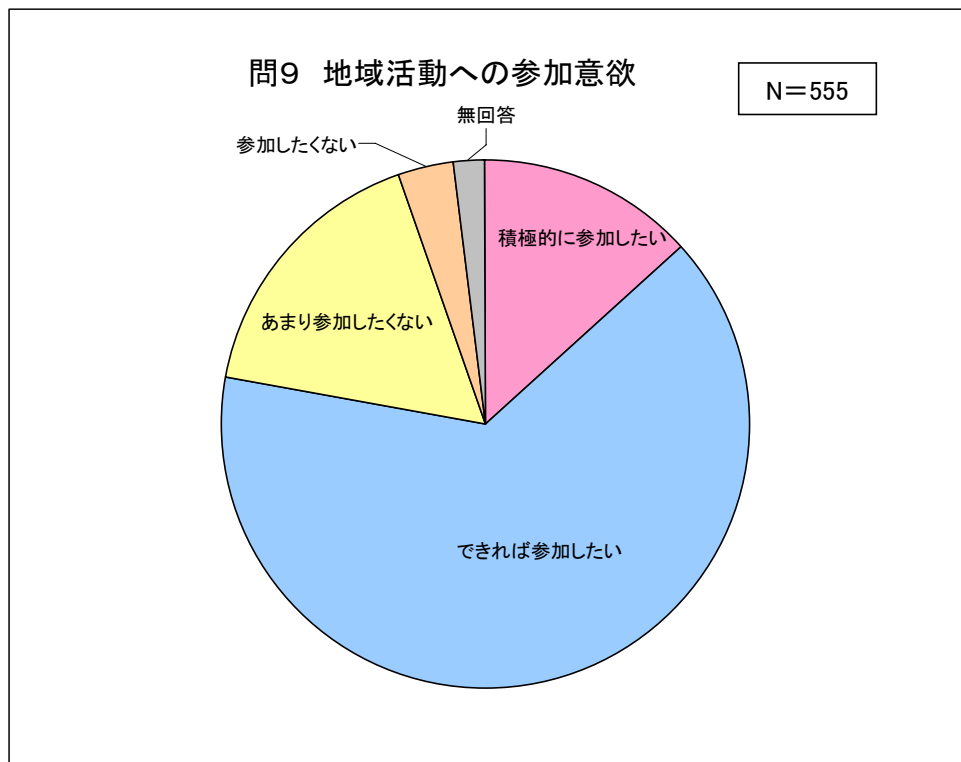
【主な参加したことの安全・安心まちづくりに関するイベントの内容】

- 防災訓練（自治会、婦人会等）
- 消防団による消防訓練
- 災害に関する市民フォーラム、防災セミナーへの参加（地震対策研究会主催） 等

問9. 地域活動への参加意欲

(単一回答)

■地域が主体となった安全・安心まちづくりの活動について、全体の約3/4 (約78%)が参加したい意向(「積極的に参加」「できれば参加」)を示している。

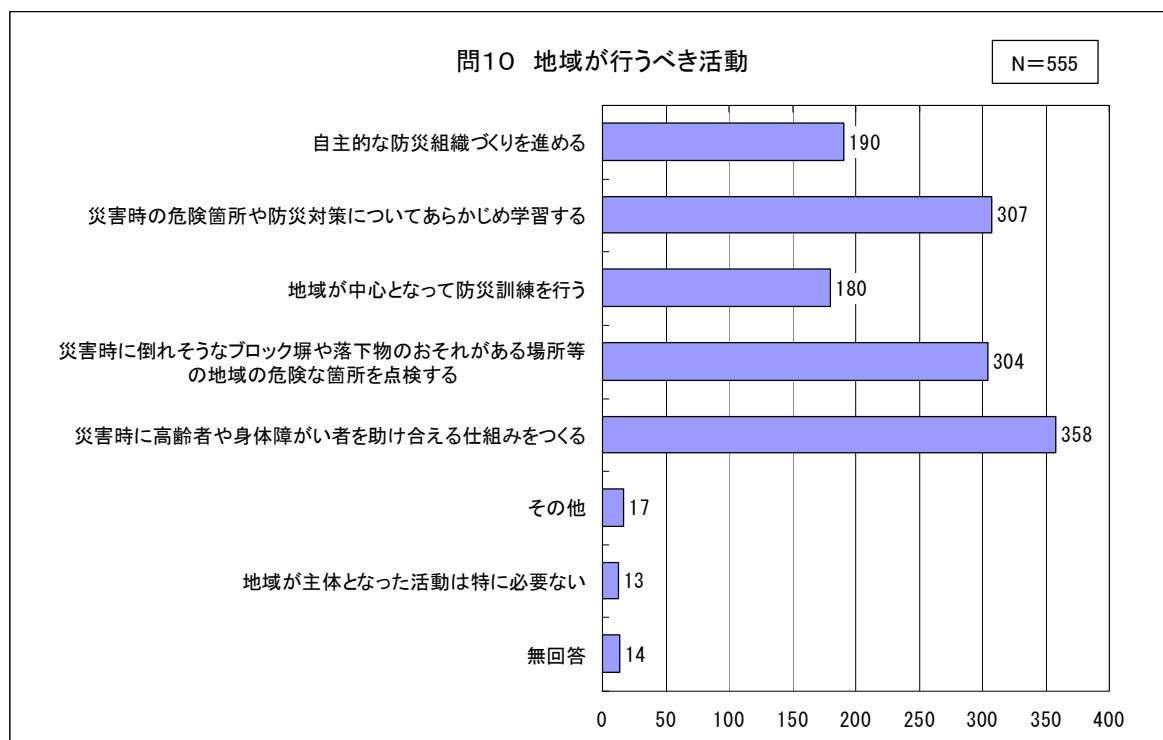


地域活動への参加意欲	回答数	回答率
積極的に参加したい	74	13.3%
できれば参加したい	358	64.5%
あまり参加したくない	93	16.8%
参加したくない	19	3.4%
無回答	11	2.0%

問 10. 地域が行うべき活動

(複数回答)

- 全体として、「地域が主体となった活動が必要ない」との意見は少なく（約2%）、安全・安心まちづくりに向けた地域活動の必要性が市民に高く認識されている。
- 活動としては、「災害時要援護者の支援」を行うべきとの意見が最も多い（約65%）。
- 次いで、「危険箇所・防災対策の学習（約55%）」「危険箇所の点検（約55%）」を行うべきとの意見が多く、半数以上が選択している。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向となっている。



地域が行うべき活動	回答数	回答率	最も重要
自主的な防災組織づくりを進める	190	34.2%	55
災害時の危険箇所や防災対策についてあらかじめ学習する	307	55.3%	125
地域が中心となって防災訓練を行う	180	32.4%	53
災害時に倒れそうなブロック塀や落下物のおそれがある場所等の地域の危険な箇所を点検する	304	54.8%	112
災害時に高齢者や身体障がい者を助け合える仕組みをつくる	358	64.5%	168
その他	17	3.1%	8
地域が主体となった活動は特に必要ない	13	2.3%	13
無回答	14	2.5%	21

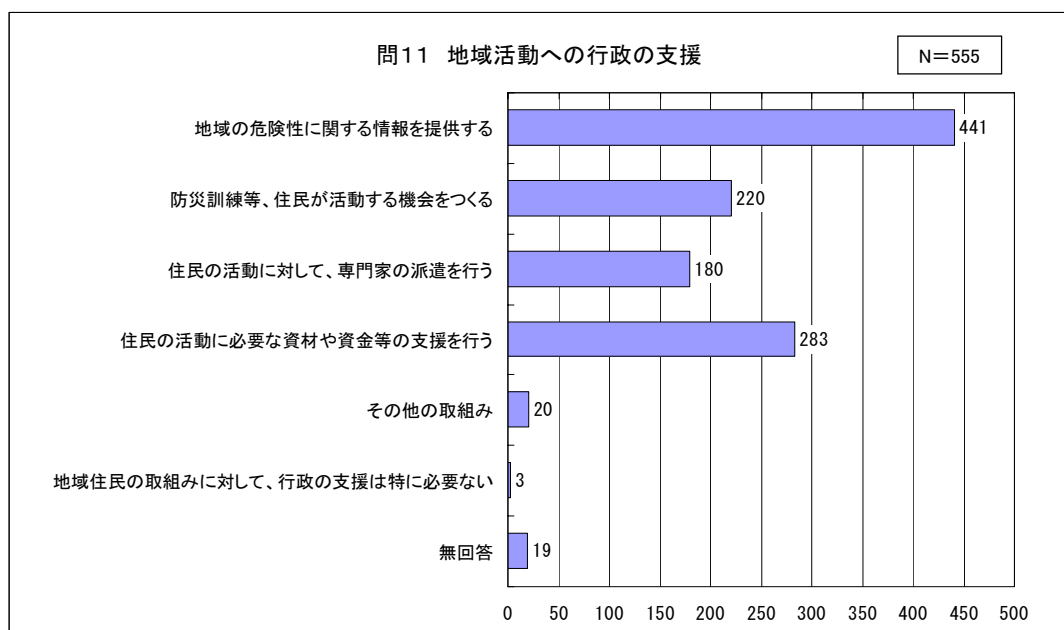
【その他の主な地域が行うべき活動の内容】

- 町内会などの既存組織活動を利用した防災活動
- 近隣とのつきやいや、高齢者・障害者・子供等を助け合う仕組みづくり
- 周辺地域などとの連携 等

問 11. 地域活動への行政の支援

(複数回答)

- 地域活動に対する行政支援として、「地域の危険性に関する情報提供」が必要との意見が最も多く、全体の約8割（約80%）が選択している。
- 次いで、「資材や資金等の支援（約51%）」「住民が活動する機会の創出（約40%）」が必要との意見が多くなっている。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向となっている。



地域活動への行政の支援	回答数	回答率	最も重要
地域の危険性に関する情報を提供する	441	79.5%	281
防災訓練等、住民が活動する機会をつくる	220	39.6%	76
住民の活動に対して、専門家の派遣を行う	180	32.4%	30
住民の活動に必要な資材や資金等の支援を行う	283	51.0%	130
その他の取組み	20	3.6%	15
地域住民の取組みに対して、行政の支援は特に必要ない	3	0.5%	3
無回答	19	3.4%	20

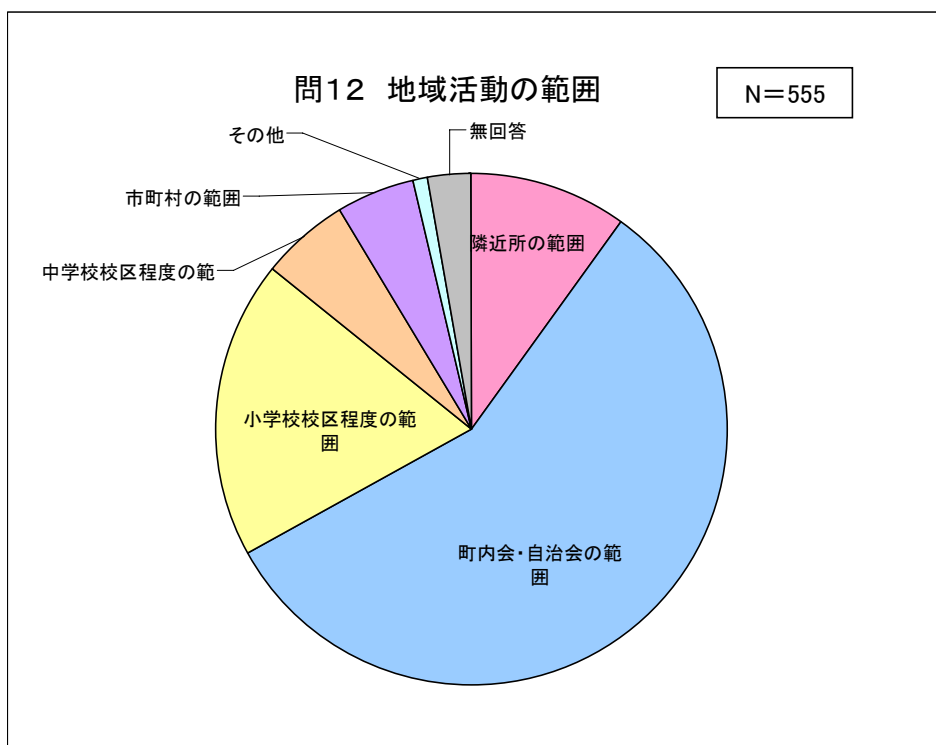
【その他の主な地域活動への行政の支援の内容】

- 各世帯への災害時準備に対する支援
 - 任意参加の町内会システムを改善するための統制・支援
 - 災害時の情報提供の迅速化
 - 高齢者、障害者などへの支援体制の確立
- 等

問 12. 地域活動の範囲

(単一回答)

- 地域活動の範囲として、「町内会・自治会」とする意見が多く、半数以上（約 57%）が選択している。
- 次いで、「小学校校区程度（約 19%）」との意見が多くなっている。



地域活動の範囲	回答数	回答率
隣近所の範囲	56	10.1%
町内会・自治会の範囲	315	56.8%
小学校校区程度の範囲	105	18.9%
中学校校区程度の範囲	31	5.6%
市町村の範囲	28	5.0%
その他	4	0.7%
無回答	16	2.9%
合計	555	100.0%

【その他の地域の活動の範囲の内容】

■個人レベルの範囲 等

問 19. 自由意見

- 地域単位で主体的に活動や共助のできる体制づくりが必要との意見が見られる。
- 各市民の防災意識の向上を図るために、ハザードマップや災害時の行動マニュアルに関する情報をわかりやすく伝える必要があるとの意見が見られる。
- 自然災害のみでなく、防犯対策の必要性についても意見が見られる。

今後の安全・安心まちづくりの取組みについて

■主な意見

<地域活動>

- ・防災をテーマとした活動などにより、町内会・自治会の活性化を図ることが有効。
- ・近隣のつきあいを大切にして災害時に協力・助け合いのできる体制づくりが必要。
- ・高齢化の進展を踏まえて、特に高齢者や障害者への地域レベルでのサポートが必要。

<情報提供・啓蒙活動>

- ・わかりやすいハザードマップの配布などにより、行政が積極的に情報提供を行うことが必要。
- ・地域と行政の連携により、市民に防災への関心を持たせるための取組みや、災害時の対処方法等を学習する機会をつくることが大切。
- ・災害別の行動マニュアルを作成し、市民に周知することが必要。

<施設整備面での対策>

- ・防犯のための電灯の設置が必要。
- ・地域レベルでの災害時のための備品の倉庫（備蓄庫）の更なる設置が必要。

<防犯対策>

- ・自然災害のみでなく、子供たちの安全対策（防犯・事故防止など）にしっかり取り組むことが必要。

等

4. アンケート票【仙台市民版】

安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査

【アンケート調査ご協力のお願い】

安全で安心な暮らしのために、また、災害が発生した場合の被害を最小限とするためには、自然災害の危険性を理解し、効果的な対応策に取り組む必要があります。

そこで、自然災害の危険性に関する情報を、皆様がどのように受け取っているか、また、安全・安心まちづくりを進めていく上で、どのような考えをお持ちかについてご意見を伺い、今後の我が国における安全・安心まちづくりに向けた取組みに役立てることを目的として「安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査」を実施することと致しました。

今回ご回答をお願いしているのは、仙台市にお住まいの満20歳以上の皆様の中から無作為に選ばせて頂いた1,500人の方々です。アンケートにご記入いただいた内容は統計的に処理致しますので、ご回答頂いた方に不利益となることはございません。また、この調査は、八千代エンジニアリング株式会社に委託して実施していますが、他の目的に使用することは決してございません。

ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査の趣旨をご理解頂き、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年12月

国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域安全課
調査委託会社 八千代エンジニアリング株式会社

◆アンケートの記入にあたって

- ①ご自身のお考えや日常の行動についてお答えください。
- ②問1から順にお読み頂き、あてはまる選択項目を選んでください。質問には、「ひとつだけ選択」するものと「あてはまるものを全て選択」するものとがありますので、ご注意ください。
- ③ご回答頂いたアンケート調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、
平成21年1月7日(水)までにご投函くださいますようお願いいたします。

◆調査主体

- ①調査実施主体：国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域安全課
担当 山本 TEL 03(5253)8111 (内線 32335)
- ②調査協力：仙台市 消防局 防災安全部 防災安全課
仙台市 都市整備局 住環境部 住環境整備課
- ③調査委託会社：八千代エンジニアリング株式会社

◆問合せ先 アンケートに関するご質問等は、以下にお願いします。

調査担当 八千代エンジニアリング株式会社 地域計画部(担当 高森・寺脇)
〒161-8575 東京都新宿区西落合2-18-12
TEL 03(5906)0528 FAX 03(5906)0815

記入方法について特に記載がない場合は、該当する選択肢の番号に○をつけてください。

問1.【被災の経験】あなたは、これまで地震や洪水等の自然災害により、自宅が被害を受けたり、避難場所等に避難したことはありますか？（ひとつだけ選択）

1. 自宅が被害を受け、避難場所等に避難したことがある
2. 自宅は被害を受けなかったが、避難場所等に避難したことがある
3. 自宅は被害を受けたが、避難所等には避難しなかった
4. その他（具体的にご記入ください）
5. 経験したことはない

問2.【地域で不安と感じる項目】あなたがお住まいの地域で自然災害が発生した場合に、不安と感じることはありますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 建物が密集しており、災害時に建物が倒れる等の被害が発生しそうで不安だ
2. 大雨等の場合に、水があふれてしまうのではないかと不安だ
3. 道路がせまく、火災の燃え広がりや避難のしにくさ等が不安だ
4. 避難する建物の安全性（耐震性等）が不安だ
5. 避難できる場所が近くにないのが不安だ
6. 災害時に、どのように行動すればよいのかわからないので不安だ
7. その他（具体的にご記入ください）
8. 特に不安は感じていない

問3.【災害時に自分を守るための取組み】災害時に自分や家族の命を自ら守るために、現在、どのような取組みを行っていますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 食糧や飲料水を準備している
2. 近くの学校や公園等、避難する場所を決めている
3. 家族との連絡方法等を決めている
4. 家具や冷蔵庫等を固定し、転倒を防止している
5. 防災訓練に積極的に参加している
6. 自分の家の耐震性を高くしている
7. 大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策している
8. 危険性の高い地域から、安全な地域に移転した（移転の予定や検討中を含みます）
9. その他（具体的にご記入ください）
10. 特に取組みは行っていない

問3で複数の項目を選択された方は、【問3-1】をお答えください

問3-1. 選択された項目の中で、最も重要とを感じる項目をひとつだけ、右の四角枠にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

ハザードマップ（洪水や地震等の自然災害について、想定される災害の状況や、避難に関する情報を整理した地図）について伺います。

問4.【マップのわかりやすさ】以下の災害のハザードマップを見て、自分の地域が危険かどうかわかりやすいと思いますか？あてはまる箇所に○をつけてください。

	ハザードマップの種類				
	地震	洪水	高潮	津波	土砂
1. わかりやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. わかりにくい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 見たことがない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

「2. わかりにくい」と感じた内容や改善するとよい内容等を具体的にご記入ください。

例) マップに示される危険度が、自分にとってどの程度危ないのかよくわからない
自分の家の位置が詳細にわかるとよい 等

問5.【マップを見た後の意識の変化】ハザードマップを見た後で、意識の変化はありましたか？（あてはまるものを全て選択）

1. 災害に対する意識が高まった
2. 自分の地域が安全なことがわかり、安心した
3. 自分の地域が危険なことがわかり、災害に対して不安になった
4. 避難場所や避難路等に興味を持つようになった
5. 災害への具体的な備え方について、より詳細な情報が必要と感じた
6. その他（具体的にご記入ください）

}

7. 特に意識に変化はなかった

問6.【マップを見た後の行動の変化】問3で回答した取組みの中で、ハザードマップを見た後に新たに行ったものはありますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 食糧や飲料水を準備した
2. 近くの学校や公園等、避難する場所を決めた
3. 家族との連絡方法等を決めた
4. 家具や冷蔵庫等を固定し、転倒防止を行った
5. 防災訓練に積極的に参加するようになった
6. 自分の家の耐震性を高くした（耐震化の予定や検討中を含みます）
7. 大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策を行った
8. 危険性の高い地域から、安全な地域に移転した（移転の予定や検討中を含みます）
9. その他（具体的にご記入ください）

}

10. 特に新たな取組みは行っていない

安全・安心まちづくりの進め方について伺います。

問7.【行政による取組み】災害に対する行政の取組みとして、どのような取組みが必要とお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

- 1. 地域の危険性に関する情報を公表することが必要
 - 2. 被害を軽減できるように、住民の防災教育等に取り組むことが必要
 - 3. 安全な避難場所等の災害時の防災拠点を確保することが必要
 - 4. 堤防を高くしたり、橋の耐震化を行う等公共事業による対策が必要
 - 5. 災害の危険性に対応して、建物の構造や耐震性等を強化させる取組みが必要
 - 6. 災害の危険性が高い土地の開発を規制する等の取組みが必要
 - 7. その他の取組みが必要（具体的にご記入ください）
8. 行政による災害対策の取組みは特に必要ない

問7で複数の項目を選択された方は、【問7-1】をお答えください

問7-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠
にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問8.【イベントへの参加】あなたは、今までに町内会、自治会等で行われた安全・安心まちづくりに関するイベント（防災訓練等）に参加したことはありますか？（ひとつだけ選択）

- 1. ある
- 2. ない

「1.ある」を選択された方は、【問8-1】をお答えください。

問8-1. それはどのような取組みですか。団体名や活動内容等を具体的にご記入ください。

問9.【地域活動への参加意欲】あなたは、今後、地域が主体となって安全・安心まちづくりの活動を行う場合、参加したいと思いますか？（ひとつだけ選択）

- 1. 積極的に参加したい
- 2. できれば参加したい
- 3. あまり参加したくない
- 4. 参加したくない

問 10.【地域が行うべき活動】安全・安心まちづくりに向けて、地域住民が協力し主体となつてどのような活動を行うべきとお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

1. 自主的な防災組織づくりを進める
2. 災害時の危険箇所や防災対策についてあらかじめ学習する
3. 地域が中心となつて防災訓練を行う
4. 災害時に倒れそうなブロック塀や落下物のおそれがある場所等の地域の危険な箇所を点検する
5. 災害時に高齢者や身体障がい者を助け合える仕組みをつくる
6. その他（具体的にご記入ください）
7. 地域が主体となつた活動は特に必要ない

問 10 で複数の項目を選択された方は、【問 10-1】をお答えください

問 10-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問 11.【地域活動への行政の支援】安全・安心まちづくりに向けた地域活動に対して、行政はどのような支援を行うべきとお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

1. 地域の危険性に関する情報を提供する
2. 防災訓練等、住民が活動する機会をつくる
3. 住民の活動に対して、専門家の派遣を行う
4. 住民の活動に必要な資材や資金等の支援を行う
5. その他の取組み（具体的にご記入ください）
6. 地域住民の取組みに対して、行政の支援は特に必要ない

問 11 で複数の項目を選択された方は、【問 11-1】をお答えください

問 11-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問 12.【地域活動の範囲】安全・安心まちづくりに向けた地域活動を行う際に、あなたがイメージする「地域」は、どの程度の範囲ですか？（ひとつだけ選択）

1. 隣近所の範囲	2. 町内会・自治会の範囲
3. 小学校校区程度の範囲	4. 中学校校区程度の範囲
5. 市町村の範囲	6. その他

あなたのことについて伺います。

問 13. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問 14. あなたの年齢をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | |
|--------|----------|
| 1. 20代 | 2. 30代 |
| 3. 40代 | 4. 50代 |
| 5. 60代 | 6. 70代以上 |

問 15. あなたのご職業をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | | |
|--------------|--------|--------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 自営業 |
| 4. パート・アルバイト | 5. 主婦 | 6. 学生 |
| 7. 無職 | 8. その他 | [] |

問 16. あなたのお住まいについてお答えください。(直接ご記入ください)

仙台市 () 区 () 町・大字

問 17. 現在あなたと一緒に住まいのご家族について伺います。(ひとつだけ選択)

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 単身(一人世帯) | 2. 夫婦のみ |
| 3. 二世帯世帯 | 4. 三世帯世帯 |
| 5. その他 | [] |

問 18. あなたは現在住まいの地域にどのくらい住んでいますか。(ひとつだけ選択)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上5年未満 |
| 3. 5年以上10年未満 | 4. 10年以上20年未満 |
| 5. 20年以上30年未満 | 6. 30年以上 |

問 19. 今後の安全・安心まちづくりの取組みについて、ご意見がございましたらご自由にご記入ください。

--

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

ご回答頂いたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成21年1月7日(水)までにご投函くださいますようお願いいたします。

安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査

～浜松市民版～

集 計 結 果

目 次

1. 調査の概要	1
1) 調査の目的	1
2) 調査対象	1
3) 主な調査項目	1
4) 調査方法	1
5) 調査実施期間	1
2. 結果の概要	2
1) 回収率	2
2) 回答者の属性	2
3) 調査結果の概要	2
3. 単純集計結果	3
問1 被災の体験	3
問2 地域で不安と感じる項目	4
問3 災害時に自分を守るための取組み	5
問4 マップのわかりやすさ	6
問5 マップを見た後の意識の変化	7
問6 マップを見た後の行動の変化	8
問7 行政による取組み	9
問8 イベントへの参加	10
問9 地域活動への参加意欲	11
問10 地域が行うべき活動	12
問11 地域活動への行政の支援	13
問12 地域活動の範囲	14
問19 自由意見	15
4. アンケート票【浜松市民版】	16

1. 調査の概要

1) 調査の目的

今後の我が国における安全・安心まちづくりの展開に役立てるために、先進的自治体（仙台市、浜松市、四日市市）の市民における「地域での安全・安心なまちづくりに関する活動状況」や「地域コミュニティへの参加意識」などを把握することを目的として実施した。

2) 調査対象

- 浜松市民を対象とした。
- 市内在住（満 20 歳以上）から 1,500 人を抽出した。

3) 主な調査項目

- 地域との関わりに関する認識・地域活動への参加状況
- ハザードマップの認識・理解の状況
- 安全安心まちづくりに向けた地域活動への参加意識とニーズ
- 行政の取組みに対するニーズ

4) 調査方法

- 郵送配布・郵送回収

5) 調査実施期間

- 平成 20 年 12 月 19 日（金） ～ 平成 21 年 1 月 7 日（水）
- 最終集計日：平成 21 年 1 月 21 日

2. 結果の概要

1) 回収率

配信数	回収数	回収率
1,500	614	40.9%

2) 回答者の属性

性別	回答数	構成率
男	290	47.2%
女	323	52.6%
無回答	1	0.2%

年齢	回答数	構成率
20代	64	10.4%
30代	85	13.8%
40代	108	17.6%
50代	103	16.8%
60代	123	20.0%
70代以上	131	21.3%

居住地	回答数	構成率
浜松市北区	55	9.0%
浜松市天竜区	30	4.9%
浜松市中区	181	29.5%
浜松市西区	107	17.4%
浜松市浜北区	71	11.6%
浜松市東区	84	13.7%
浜松市南区	83	13.5%
無回答	3	0.5%

職業	回答数	構成率
会社員	186	30.3%
公務員	29	4.7%
自営業	71	11.6%
パート・アルバイト	70	11.4%
主婦	115	18.7%
学生	10	1.6%
無職	123	20.0%
その他	10	1.6%

家族構成	回答数	構成率
単身(一人世帯)	57	9.3%
夫婦のみ	139	22.6%
二世帯世帯	308	50.2%
三世帯世帯	82	13.4%
その他	24	3.9%
無回答	4	0.7%

3) 調査結果の概要

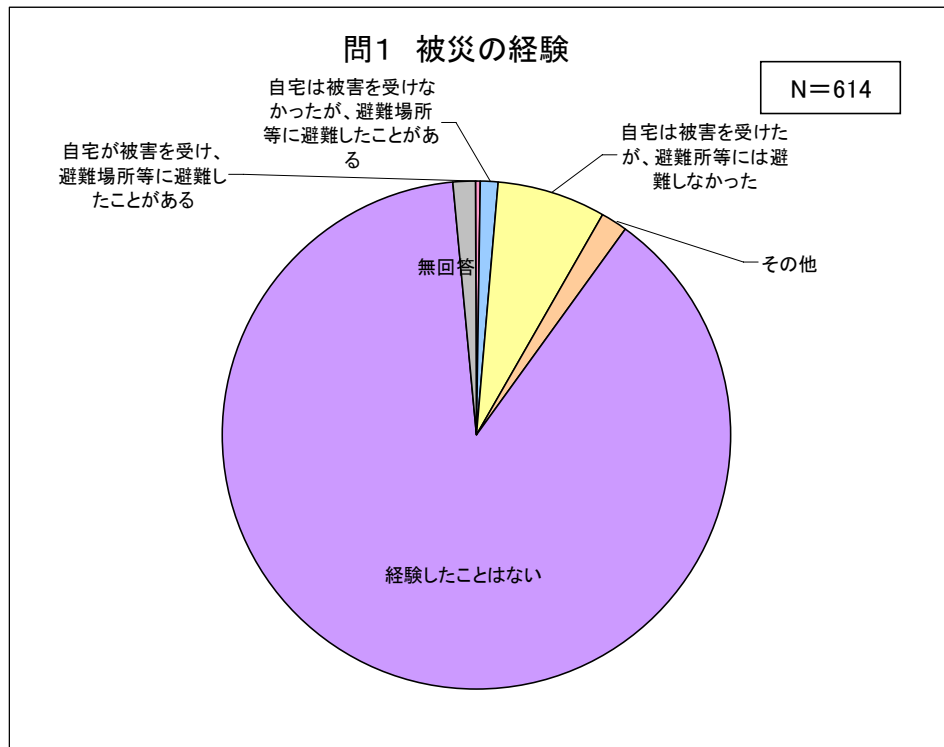
- ・全体の約9割が「被災体験がない」と回答している。
- ・災害時に不安に感じることについては、「災害時の行動の仕方がわからない」との回答が多い。
- ・全体の約8割が災害時に自分を守るための取組みを行っており、その内容として「食料等の準備」や「避難場所の設定」を行っているとの回答が多い。
- ・ハザードマップは、全体の約6割が見たことがないと回答している。マップ別では、「地震ハザードマップ」「洪水ハザードマップ」について見たことがあると多く回答している。
- ・ハザードマップを見た後の意識の変化として、「災害意識の向上」「具体的な備え方についての情報の必要性を感じたこと」及び「避難場所等への関心の向上」をあげる回答が多い。
- ・ハザードマップを見た後の行動の変化として、「避難場所の設定」「食料等の準備」「家族との連絡方法等の設定」を行ったとの回答が多い。
- ・災害に対して必要と考えられる行政の取組みとして、「地域の危険性に関する情報の公表」「避難場所の確保」をあげる回答が多い。
- ・全体の約半数が安全・安心に関するイベントに参加したことがあると回答しており、その内容として「自治会等による防災訓練」をあげる回答が多い。
- ・地域が主体となった安全・安心まちづくりの活動については、全体の約3/4が参加したい意向(積極的に参加・できれば参加)を示している。また、その内容として、「災害時要援護者の支援」「地域の危険箇所の点検」「危険箇所・防災対策の学習」をあげる回答が多い。
- ・安全・安心まちづくりの地域活動に対する行政支援としては、「地域の危険性に対する情報提供」「資材や資金等の支援」が必要との意見が多い。
- ・安全・安心まちづくりの地域活動の範囲としては、「町内会・自治会」の範囲をあげる回答が多い。

3. 単純集計結果

問1. 被災の体験

(単一回答)

- 「被災を経験したことはない」との回答が全体の約9割（約89%）を占めている。
- また、「自宅は被害を受けたが避難しなかった」と回答した人が約7%を占めている。



被災の体験	回答数	回答率
自宅が被害を受け、避難場所等に避難したことがある	1	0.2%
自宅は被害を受けなかったが、避難場所等に避難したことがある	7	1.1%
自宅は被害を受けたが、避難所等には避難しなかった	44	7.2%
その他	9	1.5%
経験したことはない	544	88.6%
無回答	9	1.5%

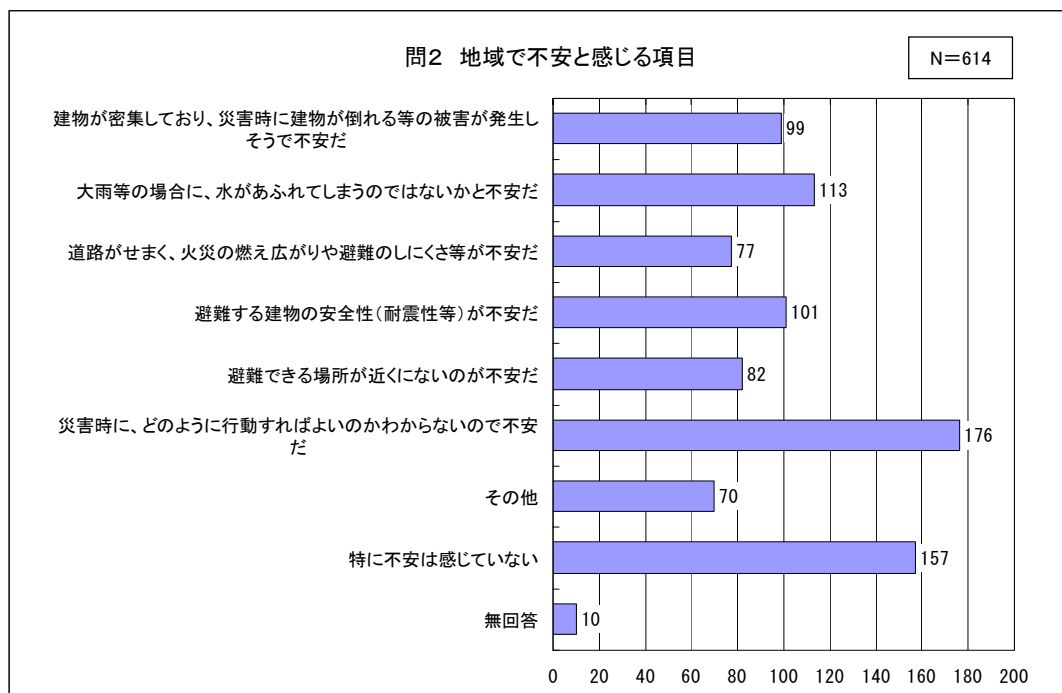
【その他の主な被災の体験の内容】

- 以前住んでいた場所が被災を受けた
 - 仕事先（工場・水田）が被災を受けた
- 等

問2. 地域で不安を感じる項目

(複数回答)

- 「災害時の行動の仕方がわからない」という意見が最も多い (約 29%)。
- 次いで、「大雨時の洪水等 (18%)」「避難する建物の安全性 (約 16%)」「建物の密集 (16%)」に不安を感じている意見が多い。
- 一方で、全体の約 1 / 4 (約 26%) が「特に不安は感じていない」と回答している。



地域で不安を感じる項目	回答数	回答率
建物が密集しており、災害時に建物が倒れる等の被害が発生しそうで不安だ	99	16.1%
大雨等の場合に、水があふれてしまうのではないかと不安だ	113	18.4%
道路がせまく、火災の燃え広がりや避難のしにくさ等が不安だ	77	12.5%
避難する建物の安全性(耐震性等)が不安だ	101	16.4%
避難できる場所が近くにないのが不安だ	82	13.4%
災害時に、どのように行動すればよいかわからないので不安だ	176	28.7%
その他	70	11.4%
特に不安は感じていない	157	25.6%
無回答	10	1.6%

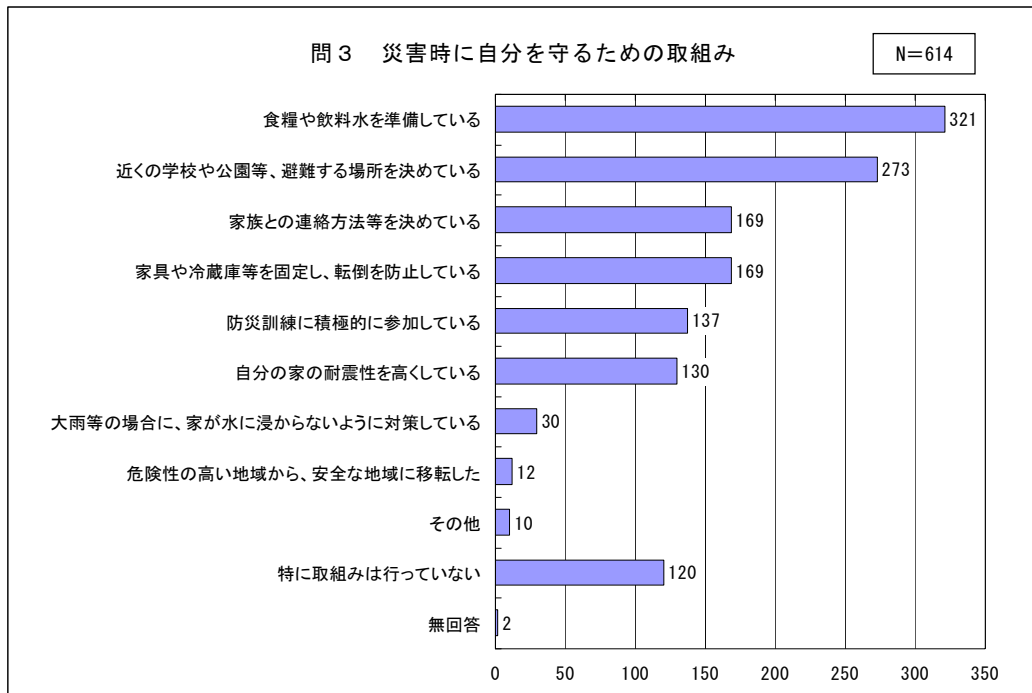
【その他の主な地域で不安を感じる内容】

- 地震時の津波や土砂崩れの災害
- 避難後の生活 (避難所の収容人員、物資の手配、ライフラインの復旧、避難者のモラル)
- 迅速な災害情報の伝達方法
- 災害時の避難路の安全性 (土砂崩れ、橋梁崩壊等による道路の分断) 等

問3. 災害時に自分を守るための取組み

(複数回答)

- 「特に取組みは行っていない」との回答は約 20%であることから、全体の約 8 割が災害時のための取組みを行っている。
- 取組みとしては、全体の約半数が「食料等の準備 (約 52%)」「避難場所の設定 (約 45%)」を行っており、避難に関する意識が高い傾向がある。
- 最重要とする取組についても、概ね上記と同様の傾向であるが、「家の耐震性の向上」を最重要とする意見が比較的多くなっている。



災害時に自分を守るための取組み	回答数	回答率	最も重要
食糧や飲料水を準備している	321	52.3%	156
近くの学校や公園等、避難する場所を決めている	273	44.5%	75
家族との連絡方法等を決めている	169	27.5%	56
家具や冷蔵庫等を固定し、転倒を防止している	169	27.5%	52
防災訓練に積極的に参加している	137	22.3%	39
自分の家の耐震性を高くしている	130	21.2%	55
大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策している	30	4.9%	2
危険性の高い地域から、安全な地域に移転した	12	2.0%	2
その他	10	1.6%	1
特に取組みは行っていない	120	19.5%	120
無回答	2	0.3%	56

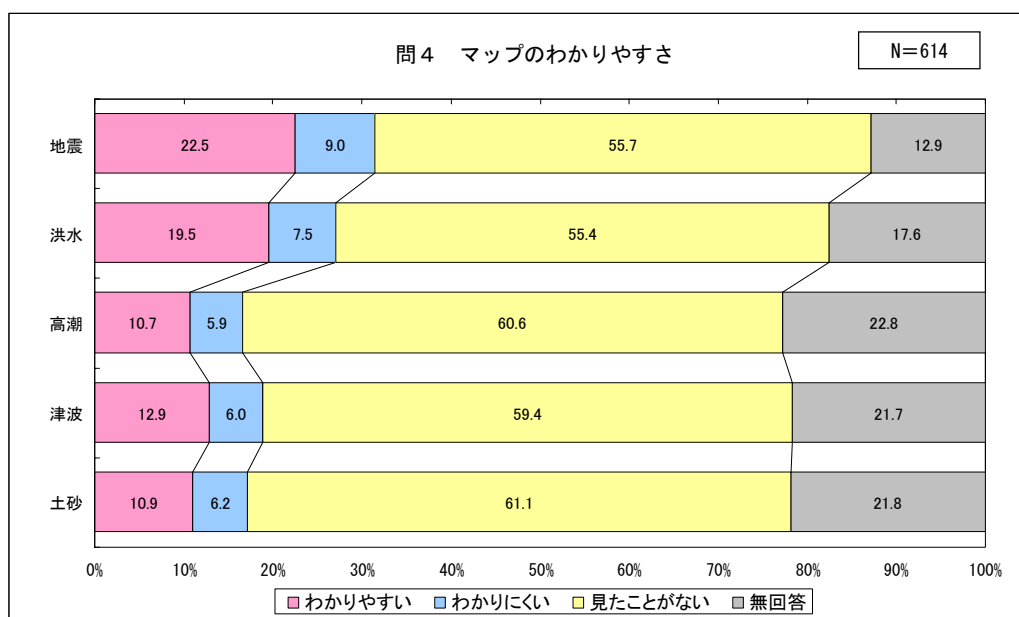
【その他の主な災害時に自分を守るための取組みの内容】

- 寝室の安全性確保 (家具を置かない等)
- 避難時の携帯物の準備 (リュック、懐中電灯、軍手等) 等

問4. マップのわかりやすさ

(単一回答)

- すべてのハザードマップで「見たことがない」との回答が最も多く、全体の約6割を占めている。
- マップ別では、地震・洪水ハザードマップについて見たことがあると多く回答している（地震：約32%、洪水：約27%）。
- 「わかりやすい」との回答は、「わかりにくい」との回答よりも多い傾向となっており、ハザードマップを見たことがあると回答している人のうち、約7割がわかりやすいと回答している。



マップのわかりやすさ	地震		洪水		高潮		津波		土砂	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
わかりやすい	138	22.5%	120	19.5%	66	10.7%	79	12.9%	67	10.9%
わかりにくい	55	9.0%	46	7.5%	36	5.9%	37	6.0%	38	6.2%
見たことがない	342	55.7%	340	55.4%	372	60.6%	365	59.4%	375	61.1%
無回答	79	12.9%	108	17.6%	140	22.8%	133	21.7%	134	21.8%

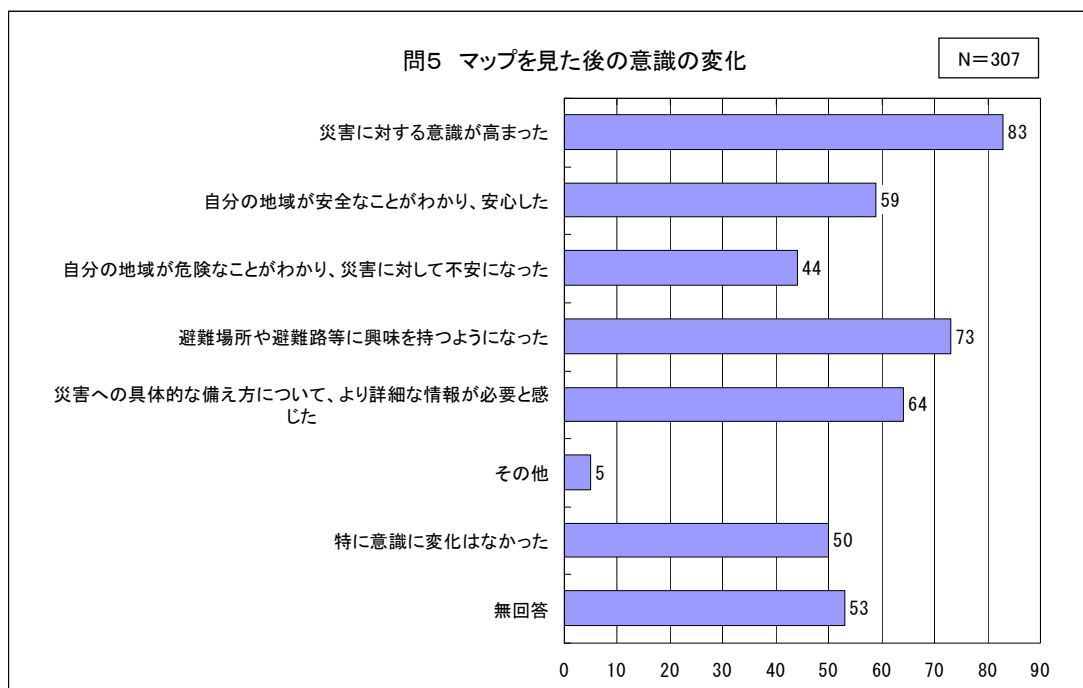
【主なわかりにくいと感じる内容や改善すると良い内容】

- 自分の家の位置がよくわからない。
- 地図の拡大や、町内別の地図があるとよい。
- 危険度や想定される被害状況がわかりにくい。
- マップについての説明・周知があると良い（集会・回覧板等） 等

問5. マップを見た後の意識の変化

(複数回答)

- 「災害に対する意識が高まった」とする回答が最も多くなっており（約 27%）、「特に意識に変化はなかった」とする回答の約 1.7 倍となっている。
- 次いで、「避難場所等への興味を持つようになった（約 24%）」「具体的な備えに対する詳細情報が必要（約 21%）」との回答が多くなっている。



マップを見た後の意識の変化	回答数	回答率
災害に対する意識が高まった	83	27.0%
自分の地域が安全なことがわかり、安心した	59	19.2%
自分の地域が危険なことがわかり、災害に対して不安になった	44	14.3%
避難場所や避難路等に興味を持つようになった	73	23.8%
災害への具体的な備え方について、より詳細な情報が必要と感じた	64	20.8%
その他	5	1.6%
特に意識に変化はなかった	50	16.3%
無回答	53	17.3%

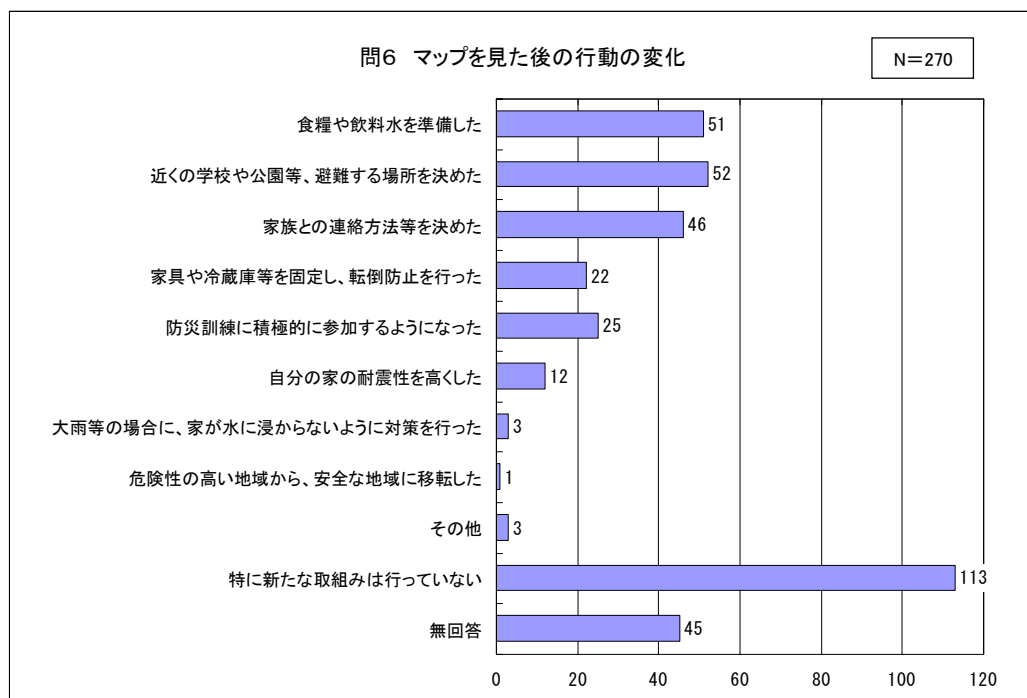
【その他の主なマップを見た後の意識の変化の内容】

- 自分の近隣の地域が危険区域であることから、災害に対する危険意識が高まった
- ハザードマップがあることの周知が必要 等

問6. マップを見た後の行動の変化

(複数回答)

- 「特に新たな取組みは行っていない」とする回答が最も多い(約42%)。
- 取組みとしては、「避難場所の設定(約19%)」が多く「食料等の準備(約19%)」など、問3と同様に避難に関する意識が高い傾向がある。



マップを見た後の行動の変化	回答数	回答率
食糧や飲料水を準備した	51	18.9%
近くの学校や公園等、避難する場所を決めた	52	19.3%
家族との連絡方法等を決めた	46	17.0%
家具や冷蔵庫等を固定し、転倒防止を行った	22	8.1%
防災訓練に積極的に参加するようになった	25	9.3%
自分の家の耐震性を高めた	12	4.4%
大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策を行った	3	1.1%
危険性の高い地域から、安全な地域に移転した	1	0.4%
その他	3	1.1%
特に新たな取組みは行っていない	113	41.9%
無回答	45	16.7%

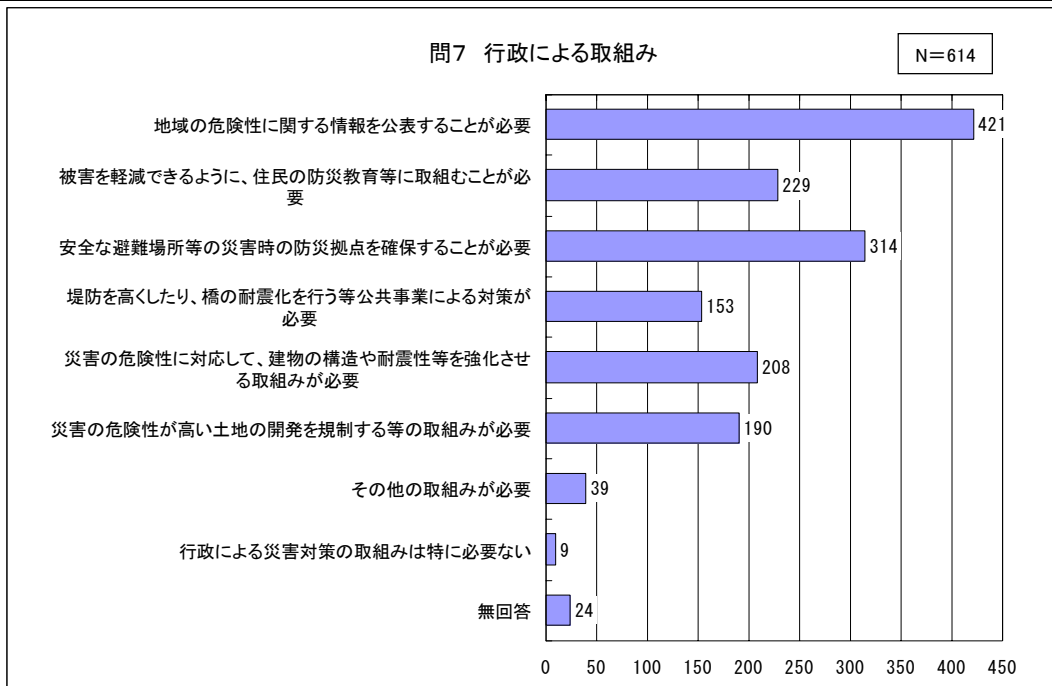
【その他の主なマップを見た後の行動の変化の内容】

- 寝室まわりの安全性の強化
 - 避難時の携帯物の確認
- 等

問7. 行政による取組み

(複数回答)

- 「地域の危険性に関する情報の公表が必要」との回答が最も多く、全体の約7割（約69%）を占めている。
- 次いで、「避難場所等の確保が必要（約51%）」とする意見が多く、「防災教育（約37%）」「建物の耐震性等の強化（約34%）」が必要との意見も多くなっている。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向となっているが、「被害軽減に向けた住民の防災教育」を最重要とする意見が比較的多くなっている。



行政による取組み	回答数	回答率	最も重要
地域の危険性に関する情報を公表することが必要	421	68.6%	234
被害を軽減できるように、住民の防災教育等に取組むことが必要	229	37.3%	77
安全な避難場所等の災害時の防災拠点を確保することが必要	314	51.1%	118
堤防を高くしたり、橋の耐震化を行う等公共事業による対策が必要	153	24.9%	25
災害の危険性に対応して、建物の構造や耐震性等を強化させる取組みが必要	208	33.9%	59
災害の危険性が高い土地の開発を規制する等の取組みが必要	190	30.9%	41
その他の取組みが必要	39	6.4%	14
行政による災害対策の取組みは特に必要ない	9	1.5%	9
無回答	24	3.9%	37

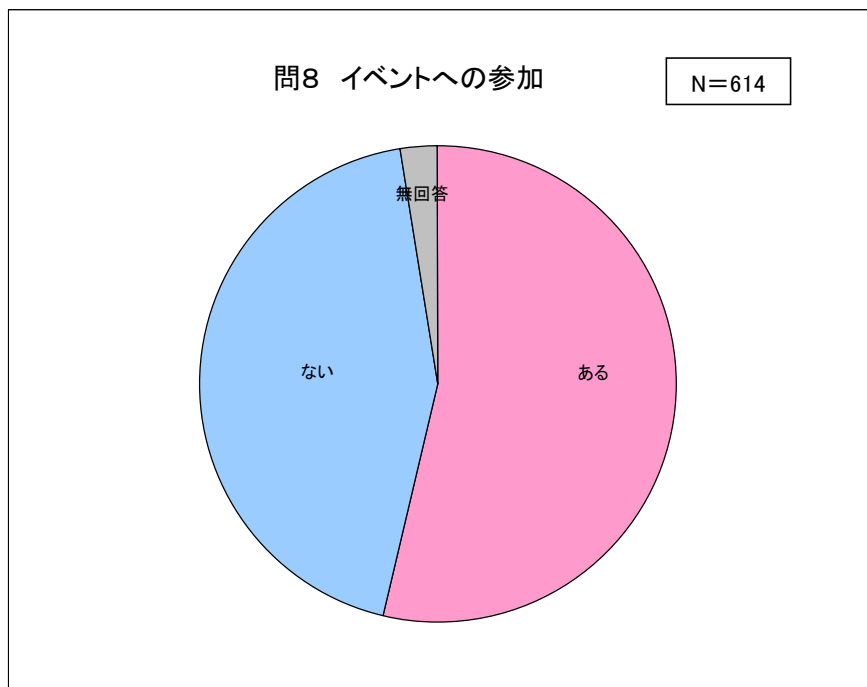
【その他の主な必要と考える行政による取組みの内容】

- 防災に対して協働するための情報提供や仕組みづくり（産・官・学・民）
- 行政間の連絡体制の強化（国、県、市、町）
- 災害後の支援の強化（ライフライン、被災者の生活支援） 等

問8. イベントへの参加

(単一回答)

■全体の約半数（約54%）が、防災訓練等の安心・安全に関するイベントに参加したことがあると回答している。



イベントへの参加	回答数	回答率
ある	330	53.7%
ない	268	43.6%
無回答	16	2.6%

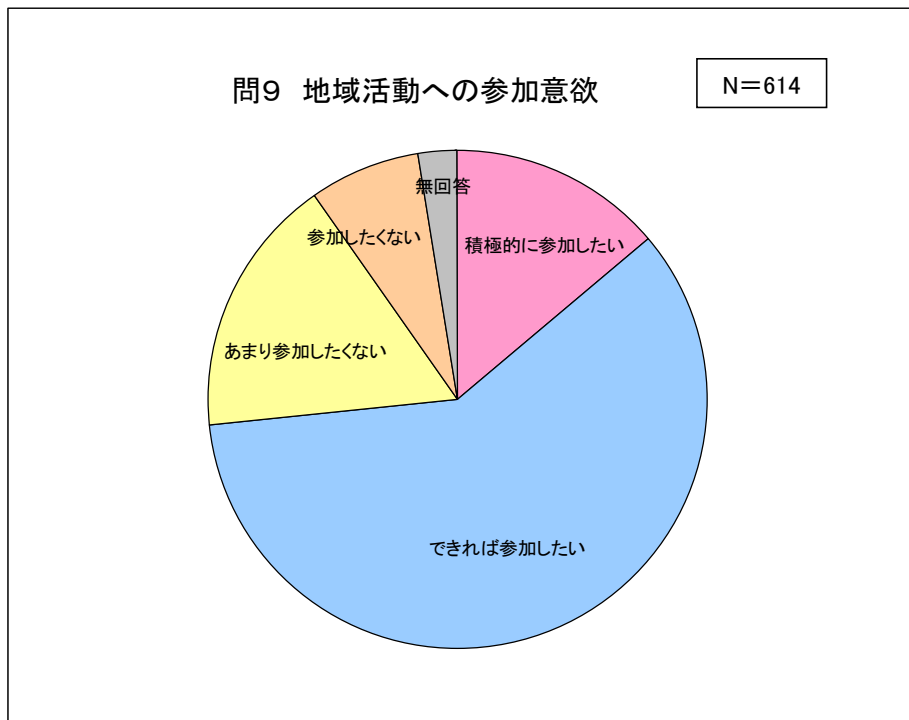
【主な参加したことのある安全・安心まちづくりに関するイベントの内容】

- 防災訓練（自治会、婦人会等）
- 消防団による消防訓練
- ボランティアによる災害講座
- トリアージュ訓練（医師会主催） 等

問9. 地域活動への参加意欲

(単一回答)

■地域が主体となった安全・安心まちづくりの活動について、全体の約3/4 (約73%)が参加したい意向(「積極的に参加」「できれば参加」)を示している。

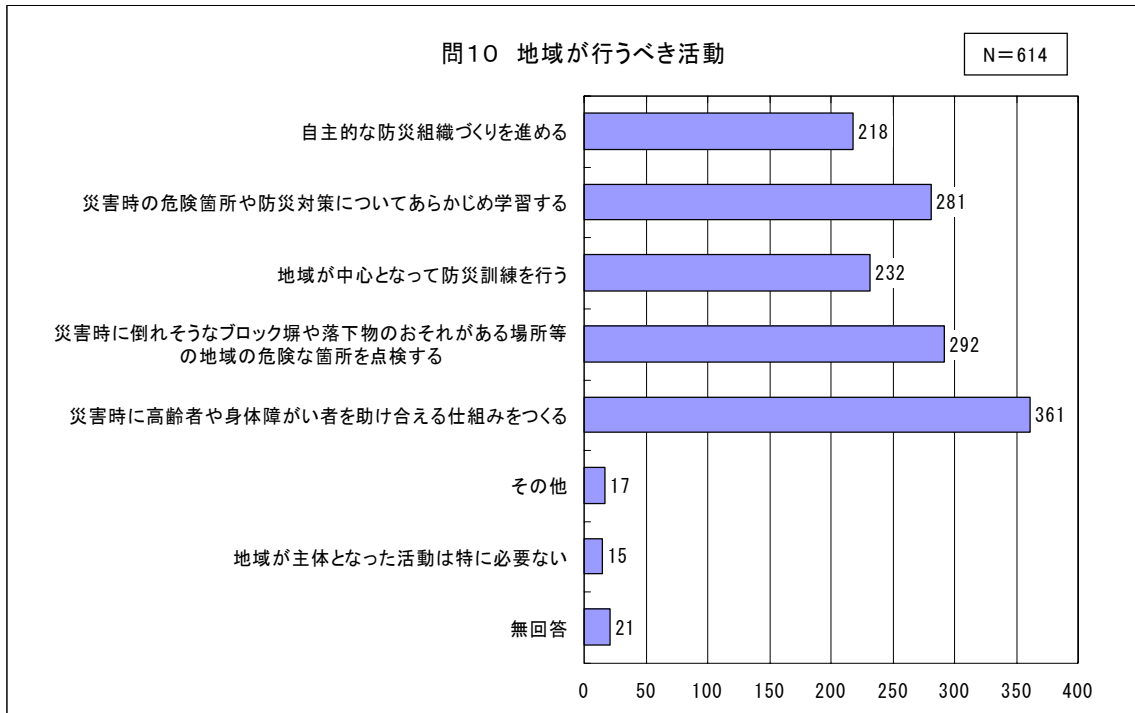


地域活動の範囲	回答数	回答率
隣近所の範囲	74	12.1%
町内会・自治会の範囲	379	61.7%
小学校校区程度の範囲	69	11.2%
中学校校区程度の範囲	25	4.1%
市町村の範囲	47	7.7%
その他	2	0.3%
無回答	18	2.9%

問 10. 地域が行うべき活動

(複数回答)

- 全体として、「地域が主体となった活動が必要ない」との意見は少なく（約2%）、安全・安心まちづくりに向けた地域活動の必要性が市民に高く認識されている。
- 活動としては、「災害時要援護者の支援」を行うべきとの意見が最も多い（約59%）。
- 次いで、「危険箇所の点検（約48%）」「危険箇所・防災対策の学習（約46%）」を行うべきとの意見が多く、半数近くが選択している。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向となっている。



地域が行うべき活動	回答数	回答率	最も重要
自主的な防災組織づくりを進める	218	35.5%	89
災害時の危険箇所や防災対策についてあらかじめ学習する	281	45.8%	123
地域が中心となって防災訓練を行う	232	37.8%	78
災害時に倒れそうなブロック塀や落下物のおそれがある場所等の地域の危険な箇所を点検する	292	47.6%	118
災害時に高齢者や身体障がい者を助け合える仕組みをつくる	361	58.8%	157
その他	17	2.8%	7
地域が主体となった活動は特に必要ない	15	2.4%	15
無回答	21	3.4%	27

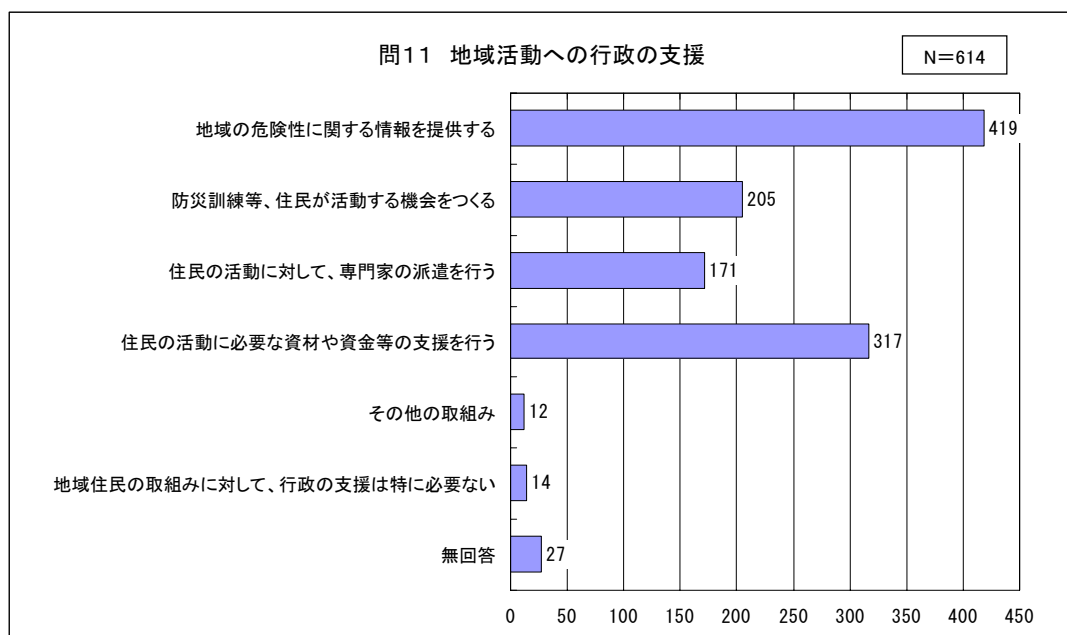
【その他の主な地域が行うべき活動の内容】

- 防災に限定しないコミュニケーションのとれる関係・組織づくり
 - 安全・安心まちづくりの拠点となる場所を各地域に設置
 - 災害後に必要となる備品の準備
 - 地域内での各人の役割の明確化
- 等

問 11. 地域活動への行政の支援

(複数回答)

- 地域活動に対する行政支援として、「地域の危険性に関する情報提供」が必要との意見が最も多く、全体の約7割（約68%）が選択している。
- 次いで、「資材や資金等の支援（約52%）」「住民が活動する機会の創出（約33%）」が必要との意見が多くなっている。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向となっている。



地域活動への行政の支援	回答数	回答率	最も重要
地域の危険性に関する情報を提供する	419	68.2%	255
防災訓練等、住民が活動する機会をつくる	205	33.4%	87
住民の活動に対して、専門家の派遣を行う	171	27.9%	52
住民の活動に必要な資材や資金等の支援を行う	317	51.6%	164
その他の取組み	12	2.0%	6
地域住民の取組みに対して、行政の支援は特に必要ない	14	2.3%	14
無回答	27	4.4%	36

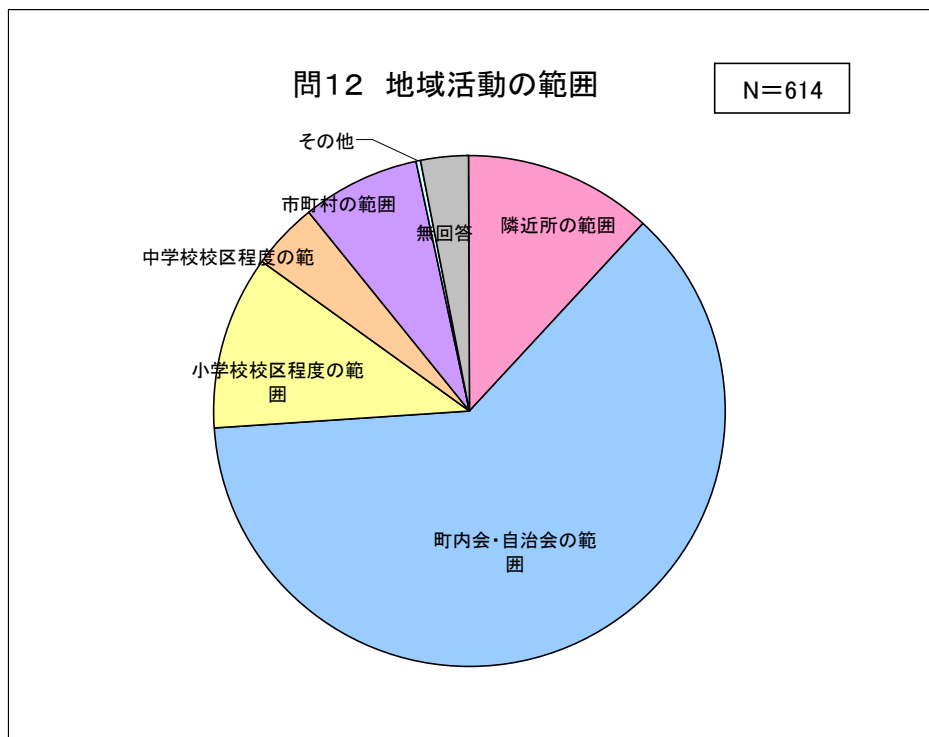
【その他の主な地域活動への行政の支援の内容】

- 地域活動に一定の制限がある地域への積極的支援（永住割合が高い地域、転勤者世帯の多い地域）
- 防災ネットワークの構築
- 地域団結のための行事（運動会・祭り等）への補助
- 自治会・住民による自主的な活動を起こさせるための指導

問 12. 地域活動の範囲

(単一回答)

- 地域活動の範囲として、「町内会・自治会」とする意見が多く、約6割（約62%）が選択している。
- 次いで、「隣近所（約12%）」「小学校校区程度（約11%）」との意見が多くなっている。



地域活動の範囲	回答数	回答率
隣近所の範囲	74	12.1%
町内会・自治会の範囲	379	61.7%
小学校校区程度の範囲	69	11.2%
中学校校区程度の範囲	25	4.1%
市町村の範囲	47	7.7%
その他	2	0.3%
無回答	18	2.9%
合計	614	100.0%

【その他の地域の活動の範囲の内容】

- 近隣所、町内会・自治会、小・中学校区、市町村の範囲のすべて。

問 19. 自由意見

- 地域単位で主体的に活動や共助のできる体制づくりが必要との意見が見られる。
- 各市民の防災意識の向上を図るために、ハザードマップや避難所に関する情報をわかりやすく伝える必要があるとの意見が見られる。
- 地域レベルでの防犯対策の必要性や、避難所・避難経路の確保などの施設整備面での取組みの必要性についても意見が見られる。

今後の安全・安心まちづくりの取組みについて

■主な意見

<地域活動>

- ・子供たちの安全対策（防犯・事故防止など）について、ボランティアによる見回りなど地域全体での取組みが必要。
- ・町内会・自治会が主体となった防災訓練等の実施が必要。
- ・共助のできる地域コミュニティをつくり、あらゆる分野が協働して防災を考えて行動する仕組みづくりが必要。
- ・災害時に状況等を的確に判断できる指導者や、被災時の役割分担を地域レベルで明確にすることが必要。

<情報提供・啓蒙活動>

- ・被災経験のある地域との連携により情報収集し、防災を楽しく学ぶ仕組みづくりが必要。
- ・わかりやすいハザードマップの配布・説明などにより、行政が積極的に情報提供を行うことが必要。
- ・防災に対する意識を高く持ってもらうための啓蒙を今まで以上に行っていくことが必要。
- ・避難場所や災害時行動マニュアルを作成し、市民に周知徹底することが必要。

<施設整備面での対策>

- ・小中学校のみでなく、高校や公共施設を活用し、避難場所を増やすことが必要。
- ・安全な避難路の確保が必要（道路の拡幅、橋脚の強化）
- ・防犯のための電灯の設置が必要。

<防犯対策>

- ・子供たちの安全対策（防犯・事故防止など）について、ボランティアによる見回りなど地域全体での取組が必要。
- ・自然災害のみでなく、防犯対策にしっかり取り組むことが必要。

等

4. アンケート票【浜松市民版】

安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査

【アンケート調査ご協力をお願い】

日ごろ、市政の推進につきましては、ご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

近年、大地震や記録的な集中豪雨等の自然災害が多発する傾向があります。安全で安心な暮らしのために、また、災害が発生した場合の被害を最小限とするためには、自然災害の危険性を理解し、効果的な対応策に取り組む必要があります。

そこで、自然災害の危険性に関する情報を、皆様がどのように受け取っているか、また、安全・安心まちづくりを進めていく上で、どのような考えをお持ちかについてご意見を伺い、今後の我が国における安全・安心まちづくりに向けた取組みに役立てることを目的として「安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査」を実施することと致しました。

本アンケート調査は、国土交通省と浜松市が協力して実施するもので、市内にお住まいの満20歳以上の皆様の中から無作為に選ばせて頂いた1,500人の方々にご回答をお願いしています。

アンケートにご記入いただいた内容は統計的に処理致しますので、ご回答頂いた方に不利益となることはございません。また、この調査は、八千代エンジニアリング株式会社に委託して実施していますが、他の目的に使用することは決してございません。

ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査の趣旨をご理解頂き、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年12月

国土交通省 浜松市

◆アンケートの記入にあたって

- ①ご自身のお考えや日常の行動についてお答えください。
- ②問1から順にお読み頂き、あてはまる選択項目を選んでください。質問には、「ひとつだけ選択」するものと「あてはまるものを全て選択」するものとがありますので、ご注意ください。
- ③ご回答頂いたアンケート調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、**平成21年1月7日(水)**までにご投函くださいますようお願いいたします。

◆調査主体

- ①調査実施機関：国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域安全課
TEL 03(5253)8111 (内線 32335)
浜松市 生活文化部 防災対策課 TEL (457)2537
- ②調査委託会社：八千代エンジニアリング株式会社

◆問合せ先 アンケートに関するご質問等は、以下にお願いします。

調査担当 八千代エンジニアリング株式会社 地域計画部 (担当 高森・寺脇)
〒161-8575 東京都新宿区西落合 2-18-12
TEL 03(5906)0528 FAX 03(5906)0815

記入方法について特に記載がない場合は、該当する選択肢の番号に○をつけてください。

問1.【被災の経験】あなたは、これまで地震や洪水等の自然災害により、自宅が被害を受けたり、避難場所等に避難したことはありますか？（ひとつだけ選択）

1. 自宅が被害を受け、避難場所等に避難したことがある
2. 自宅は被害を受けなかったが、避難場所等に避難したことがある
3. 自宅は被害を受けたが、避難所等には避難しなかった
4. その他（具体的にご記入ください）
5. 経験したことはない

問2.【地域で不安と感じる項目】あなたがお住まいの地域で自然災害が発生した場合に、不安と
感じることはありますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 建物が密集しており、災害時に建物が倒れる等の被害が発生しそうで不安だ
2. 大雨等の場合に、水があふれてしまうのではないかと不安だ
3. 道路がせまく、火災の燃え広がりや避難のしにくさ等が不安だ
4. 避難する建物の安全性（耐震性等）が不安だ
5. 避難できる場所が近くにないのが不安だ
6. 災害時に、どのように行動すればよいのかわからないので不安だ
7. その他（具体的にご記入ください）
8. 特に不安は感じていない

問3.【災害時に自分を守るための取組み】災害時に自分や家族の命を自ら守るために、現在、ど
のような取組みを行っていますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 食糧や飲料水を準備している
2. 近くの学校や公園等、避難する場所を決めている
3. 家族との連絡方法等を決めている
4. 家具や冷蔵庫等を固定し、転倒を防止している
5. 防災訓練に積極的に参加している
6. 自分の家の耐震性を高くしている
7. 大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策している
8. 危険性の高い地域から、安全な地域に移転した（移転の予定や検討中を含みます）
9. その他（具体的にご記入ください）
10. 特に取組みは行っていない

問3で複数の項目を選択された方は、【問3-1】をお答えください

問3-1. 選択された項目の中で、最も重要とを感じる項目をひとつだけ、右の四角枠
にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

ハザードマップ（洪水や地震等の自然災害について、想定される災害の状況や、避難に関する情報を整理した地図）について伺います。

問4.【マップのわかりやすさ】以下の災害のハザードマップを見て、自分の地域が危険かどうかわかりやすいと思いますか？あてはまる箇所に○をつけてください。

	ハザードマップの種類				
	地震	洪水	高潮	津波	土砂
1. わかりやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. わかりにくい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 見たことがない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

「2. わかりにくい」と感じた内容や改善するとよい内容等を具体的にご記入ください。

例) マップに示される危険度が、自分にとってどの程度危ないのかよくわからない
自分の家の位置が詳細にわかるとよい 等

問5.【マップを見た後の意識の変化】ハザードマップを見た後で、意識の変化はありましたか？（あてはまるものを全て選択）

1. 災害に対する意識が高まった
2. 自分の地域が安全なことがわかり、安心した
3. 自分の地域が危険なことがわかり、災害に対して不安になった
4. 避難場所や避難路等に興味を持つようになった
5. 災害への具体的な備え方について、より詳細な情報が必要と感じた
6. その他（具体的にご記入ください）

}

7. 特に意識に変化はなかった

問6.【マップを見た後の行動の変化】問3で回答した取組みの中で、ハザードマップを見た後に新たに行ったものはありますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 食糧や飲料水を準備した
2. 近くの学校や公園等、避難する場所を決めた
3. 家族との連絡方法等を決めた
4. 家具や冷蔵庫等を固定し、転倒防止を行った
5. 防災訓練に積極的に参加するようになった
6. 自分の家の耐震性を高めた（耐震化の予定や検討中を含みます）
7. 大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策を行った
8. 危険性の高い地域から、安全な地域に移転した（移転の予定や検討中を含みます）
9. その他（具体的にご記入ください）

}

10. 特に新たな取組みは行ってない

安全・安心まちづくりの進め方について伺います。

問7.【行政による取組み】災害に対する行政の取組みとして、どのような取組みが必要とお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

1. 地域の危険性に関する情報を公表することが必要
2. 被害を軽減できるように、住民の防災教育等に取り組むことが必要
3. 安全な避難場所等の災害時の防災拠点を確保することが必要
4. 堤防を高くしたり、橋の耐震化を行う等公共事業による対策が必要
5. 災害の危険性に対応して、建物の構造や耐震性等を強化させる取組みが必要
6. 災害の危険性が高い土地の開発を規制する等の取組みが必要
7. その他の取組みが必要（具体的にご記入ください）
8. 行政による災害対策の取組みは特に必要ない

問7で複数の項目を選択された方は、【問7-1】をお答えください

問7-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠
にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問8.【イベントへの参加】あなたは、今までに町内会、自治会等で行われた安全・安心まちづくりに関するイベント（防災訓練等）に参加したことはありますか？（ひとつだけ選択）

1. ある	2. ない
-------	-------

「1.ある」を選択された方は、【問8-1】をお答えください。

問8-1. それはどのような取組みですか。団体名や活動内容等を具体的にご記入ください。

--

問9.【地域活動への参加意欲】あなたは、今後、地域が主体となって安全・安心まちづくりの活動を行う場合、参加したいと思いますか？（ひとつだけ選択）

1. 積極的に参加したい	2. できれば参加したい
3. あまり参加したくない	4. 参加したくない

問 10.【地域が行うべき活動】安全・安心まちづくりに向けて、地域住民が協力し主体となつてどのような活動を行うべきとお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

1. 自主的な防災組織づくりを進める
2. 災害時の危険箇所や防災対策についてあらかじめ学習する
3. 地域が中心となつて防災訓練を行う
4. 災害時に倒れそうなブロック塀や落下物のおそれがある場所等の地域の危険な箇所を点検する
5. 災害時に高齢者や身体障がい者を助け合える仕組みをつくる
6. その他（具体的にご記入ください）
7. 地域が主体となつた活動は特に必要ない

問 10 で複数の項目を選択された方は、【問 10-1】をお答えください

問 10-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問 11.【地域活動への行政の支援】安全・安心まちづくりに向けた地域活動に対して、行政はどのような支援を行うべきとお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

1. 地域の危険性に関する情報を提供する
2. 防災訓練等、住民が活動する機会をつくる
3. 住民の活動に対して、専門家の派遣を行う
4. 住民の活動に必要な資材や資金等の支援を行う
5. その他の取組み（具体的にご記入ください）
6. 地域住民の取組みに対して、行政の支援は特に必要ない

問 11 で複数の項目を選択された方は、【問 11-1】をお答えください

問 11-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問 12.【地域活動の範囲】安全・安心まちづくりに向けた地域活動を行う際に、あなたがイメージする「地域」は、どの程度の範囲ですか？（ひとつだけ選択）

1. 隣近所の範囲	2. 町内会・自治会の範囲
3. 小学校校区程度の範囲	4. 中学校校区程度の範囲
5. 市町村の範囲	6. その他

あなたのことについて伺います。

問 13. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問 14. あなたの年齢をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | |
|--------|----------|
| 1. 20代 | 2. 30代 |
| 3. 40代 | 4. 50代 |
| 5. 60代 | 6. 70代以上 |

問 15. あなたのご職業をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | | |
|--------------|--------|--------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 自営業 |
| 4. パート・アルバイト | 5. 主婦 | 6. 学生 |
| 7. 無職 | 8. その他 | [] |

問 16. あなたのお住まいについてお答えください。(直接ご記入ください)

浜松市 () 区 () 町・大字

問 17. 現在あなたと一緒に住まいのご家族について伺います。(ひとつだけ選択)

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 単身(一人世帯) | 2. 夫婦のみ |
| 3. 二世帯世帯 | 4. 三世帯世帯 |
| 5. その他 | [] |

問 18. あなたは現在住まいの地域にどのくらい住んでいますか。(ひとつだけ選択)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上5年未満 |
| 3. 5年以上10年未満 | 4. 10年以上20年未満 |
| 5. 20年以上30年未満 | 6. 30年以上 |

問 19. 今後の安全・安心まちづくりの取組みについて、ご意見がございましたらご自由にご記入ください。

--

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

ご回答頂いたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成21年1月7日(水)までにご投函くださいますようお願いいたします。

安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査

～四日市市民版～

集 計 結 果

目 次

1. 調査の概要	1
1) 調査の目的	1
2) 調査対象	1
3) 主な調査項目	1
4) 調査方法	1
5) 調査実施期間	1
2. 結果の概要	2
1) 回収率	2
2) 回答者の属性	2
3) 調査結果の概要	2
3. 単純集計結果	3
問1 被災の体験	3
問2 地域で不安と感じる項目	4
問3 災害時に自分を守るための取組み	5
問4 マップのわかりやすさ	6
問5 マップを見た後の意識の変化	7
問6 マップを見た後の行動の変化	8
問7 行政による取組み	9
問8 イベントへの参加	10
問9 地域活動への参加意欲	11
問10 地域が行うべき活動	12
問11 地域活動への行政の支援	13
問12 地域活動の範囲	14
問19 自由意見	15
4. アンケート票【四日市市民版】	16

1. 調査の概要

1) 調査の目的

今後の我が国における安全・安心まちづくりの展開に役立てるために、先進的自治体（仙台市、浜松市、四日市市）の市民における「地域での安全・安心なまちづくりに関する活動状況」や「地域コミュニティへの参加意識」などを把握することを目的として実施した。

2) 調査対象

- 四日市市民を対象とした。
- 市内在住（満 20 歳以上）から 1,500 人を抽出した。

3) 主な調査項目

- 地域との関わりに関する認識・地域活動への参加状況
- ハザードマップの認識・理解の状況
- 安全安心まちづくりに向けた地域活動への参加意識とニーズ
- 行政の取組みに対するニーズ

4) 調査方法

- 郵送配布・郵送回収

5) 調査実施期間

- 平成 20 年 2 月 6 日（金） ～ 平成 21 年 2 月 20 日（金）
- 最終集計日：平成 21 年 2 月 27 日

2. 結果の概要

1) 回収率

配信数	回収数	回収率
1,500	594	39.6%

2) 回答者の属性

性別	回答数	構成率
男	279	47.0%
女	313	52.7%
無回答	2	0.3%

年齢	回答数	構成率
20代	61	10.3%
30代	80	13.5%
40代	75	12.6%
50代	104	17.5%
60代	145	24.4%
70代以上	129	21.7%

職業	回答数	構成率
会社員	181	30.5%
公務員	19	3.2%
自営業	44	7.4%
パート・アルバイト	59	9.9%
主婦	127	21.4%
学生	15	2.5%
無職	138	23.2%
その他	8	1.3%
無回答	3	0.5%

家族構成	回答数	構成率
単身(一人世帯)	61	10.3%
夫婦のみ	191	32.2%
二世帯世帯	256	43.1%
三世帯世帯	62	10.4%
その他	22	3.7%
無回答	2	0.3%

3) 調査結果の概要

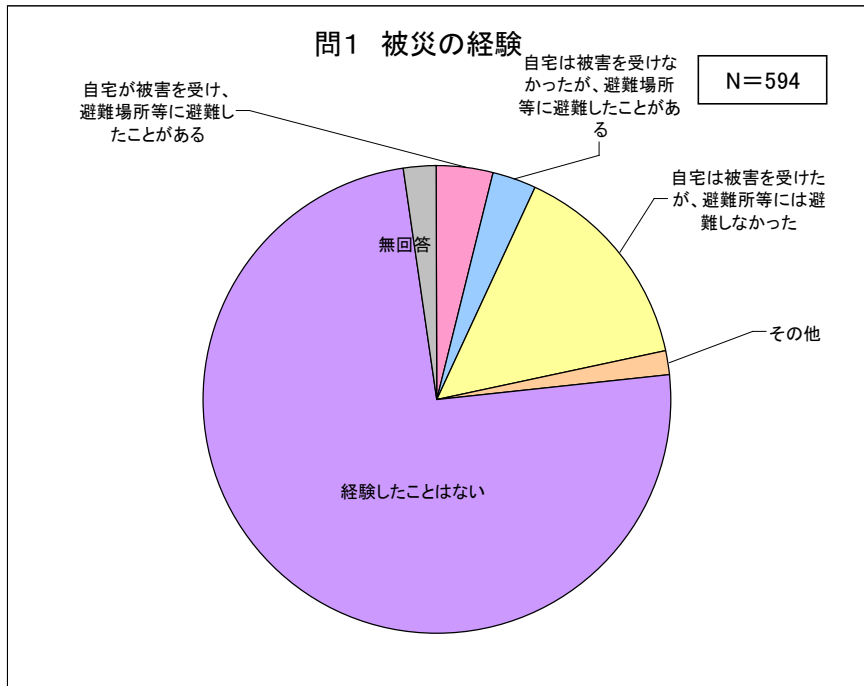
- ・全体の約1/4に被災体験があり、そのうち「自宅は被害を受けたが避難しなかった」との回答が多い。
- ・災害時に不安に感じることについては、「災害時の行動の仕方がわからない」との回答が多い。
- ・全体の約8割が災害時に自分を守るための取組みを行っており、その内容として「食料等の準備」や「避難場所の設定」を行っているとの回答が多い。
- ・ハザードマップは、全体の約5割が見たことがないと回答している。マップ別では、「地震ハザードマップ」について見たことがあると最も多く回答している。
- ・ハザードマップを見た後の意識の変化として、「避難場所等への関心の向上」「災害意識の向上」及び「具体的な備え方についての情報の必要性を感じたこと」をあげる回答が多い。
- ・ハザードマップを見た後の行動の変化として、「避難場所の設定を行った」との回答が多い。
- ・災害に対して必要と考えられる行政の取組みとして、「地域の危険性に関する情報の公表」をあげる回答が多い。
- ・全体の約5割が安全・安心に関するイベントに参加したことがあると回答しており、その内容として「自治会等による防災訓練」をあげる回答が多い。
- ・地域が主体となった安全・安心まちづくりの活動については、全体の約3/4が参加したい意向(積極的に参加・できれば参加)を示している。また、その内容として、「災害時要援護者の支援」「地域の危険箇所の点検」「危険箇所・防災対策の学習」をあげる回答が多い。
- ・安全・安心まちづくりの地域活動に対する行政支援としては、「地域の危険性に対する情報提供」が必要との意見が多い。
- ・安全・安心まちづくりの地域活動の範囲としては、「町内会・自治会」の範囲をあげる回答が多い。

3. 単純集計結果

問1. 被災の体験

(単一回答)

- 「被災を経験したことはない」との回答が全体の約3/4 (約74%) を占めている。
- また、「自宅は被害を受けたが避難しなかった」と回答した人が約15%を占めている。



被災の経験	回答数	回答率
自宅が被害を受け、避難場所等に避難したことがある	23	3.9%
自宅は被害を受けなかったが、避難場所等に避難したことがある	18	3.0%
自宅は被害を受けたが、避難所等には避難しなかった	87	14.6%
その他	10	1.7%
経験したことはない	442	74.4%
無回答	14	2.4%

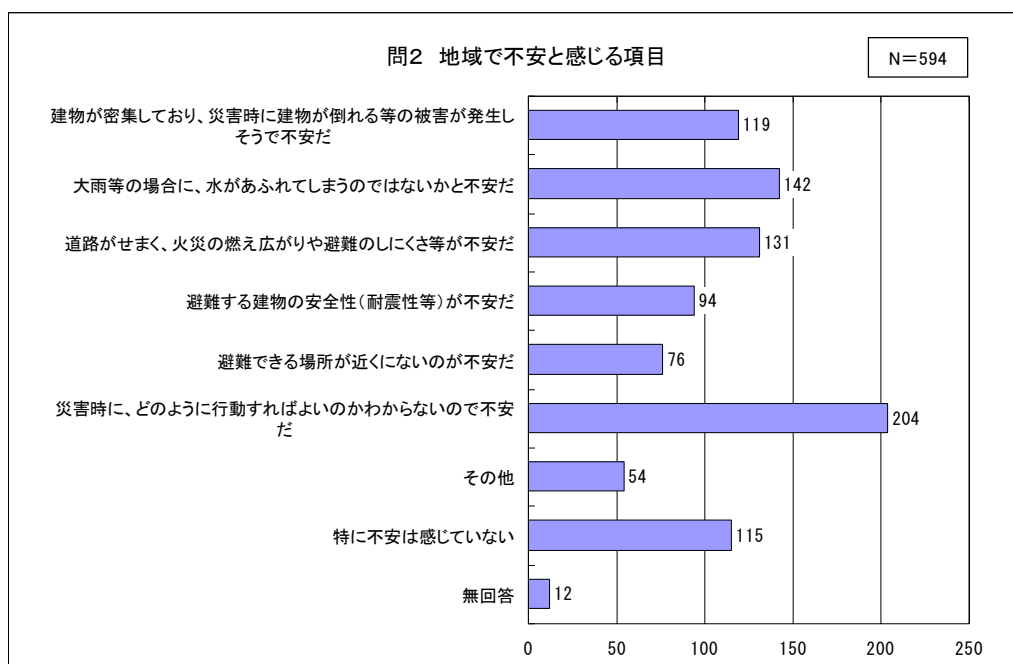
【その他の主な被災の体験の内容】

- 車庫や倉庫が被災を受けた。等

問2. 地域で不安を感じる項目

(複数回答)

- 「災害時の行動の仕方がわからない」という意見が最も多い（約 34%）。
- 次いで、「大雨時等の溢水（約 24%）」「道路の狭隘（22%）」「建物の密集（20%）」に不安を感じている意見が多い。
- 一方で、全体の約 1 / 5（約 19%）が「特に不安は感じていない」と回答している。



地域で不安を感じる項目	回答数	回答率
建物が密集しており、災害時に建物が倒れる等の被害が発生しそうで不安だ	119	20.0%
大雨等の場合に、水があふれてしまうのではないかと不安だ	142	23.9%
道路がせまく、火災の燃え広がりや避難のしにくさ等が不安だ	131	22.1%
避難する建物の安全性（耐震性等）が不安だ	94	15.8%
避難できる場所が近くにないのが不安だ	76	12.8%
災害時に、どのように行動すればよいかわからないので不安だ	204	34.3%
その他	54	9.1%
特に不安は感じていない	115	19.4%
無回答	12	2.0%

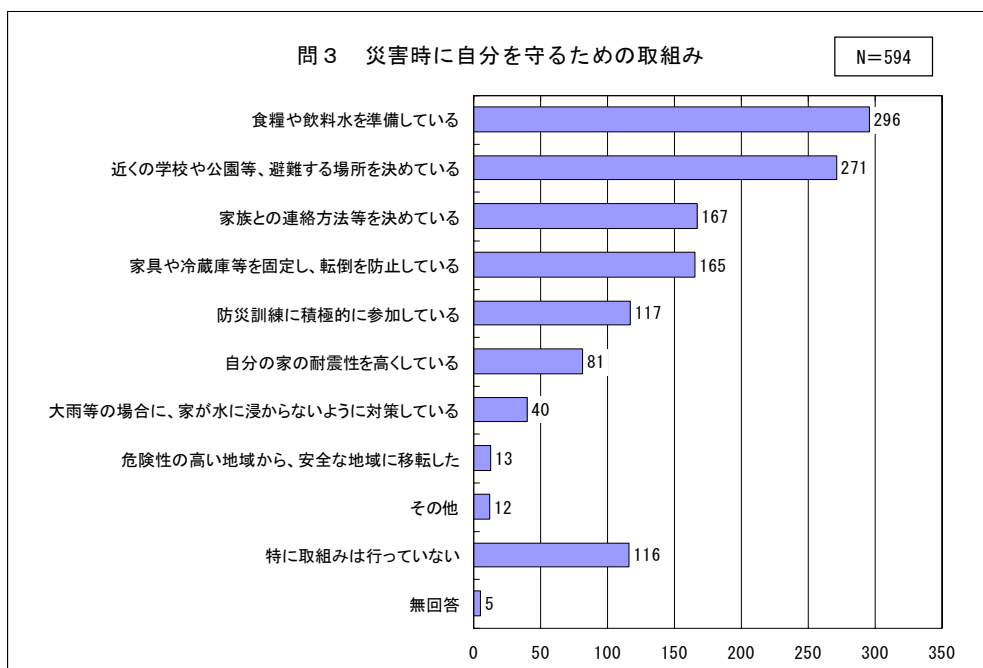
【その他の主な地域で不安を感じる内容】

- 地震時の土砂崩れの災害
- 地震等に伴う二次災害（コンビナート、石油・ガスタンク等の近傍のため）
- 避難後の生活（食料・物資の手配、ライフラインの復旧）
- 高齢者・障害者等が避難所等へ避難できるか
- 自宅の老朽化等に伴う安全性・耐震性 等

問3. 災害時に自分を守るための取組み

(複数回答)

- 「特に取組みは行っていない」との回答は約 20%であることから、全体の約 8 割が災害時のための取組みを行っている。
- 取組みとしては、全体の約半数が「食料等の準備 (約 50%)」「避難場所の設定 (約 46%)」を行っており、避難に関する意識が高い傾向がある。
- 次いで「家族との連絡方法等の設定 (約 28%)」「家具等の転倒防止 (約 28%)」を行っている」と回答している。
- 最重要とする取組についても、概ね上記と同様の傾向である。



災害時に自分を守るための取組み	回答数	回答率	最も重要
食糧や飲料水を準備している	296	49.8%	155
近くの学校や公園等、避難する場所を決めている	271	45.6%	85
家族との連絡方法等を決めている	167	28.1%	59
家具や冷蔵庫等を固定し、転倒を防止している	165	27.8%	44
防災訓練に積極的に参加している	117	19.7%	33
自分の家の耐震性を高くしている	81	13.6%	29
大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策している	40	6.7%	4
危険性の高い地域から、安全な地域に移転した	13	2.2%	6
その他	12	2.0%	2
特に取組みは行っていない	116	19.5%	116
無回答	5	0.8%	61

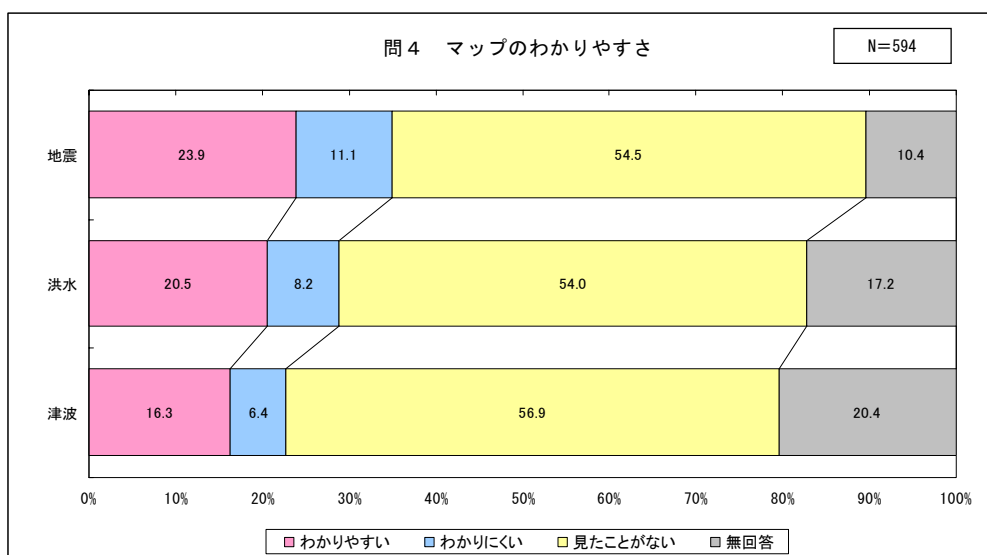
【その他の主な災害時に自分を守るための取組みの内容】

- 避難時の携帯物の準備 (リュック、懐中電灯、テント、寝袋等)
- 部屋の安全性確保 (家具を置かない等)
- 災害時の情報収集についての知識習得 等

問4. マップのわかりやすさ

(単一回答)

- すべてのハザードマップで「見たことがない」との回答が最も多く、全体の約5割超を占めている。
- マップ別では、地震ハザードマップについて見たことがあると最も多く回答している（約35%）。
- 「わかりやすい」との回答は、「わかりにくい」との回答よりも多い傾向となっている。



マップのわかりやすさ	地震		洪水		津波	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
わかりやすい	142	23.9%	122	20.5%	97	16.3%
わかりにくい	66	11.1%	49	8.2%	38	6.4%
見たことがない	324	54.5%	321	54.0%	338	56.9%
無回答	62	10.4%	102	17.2%	121	20.4%

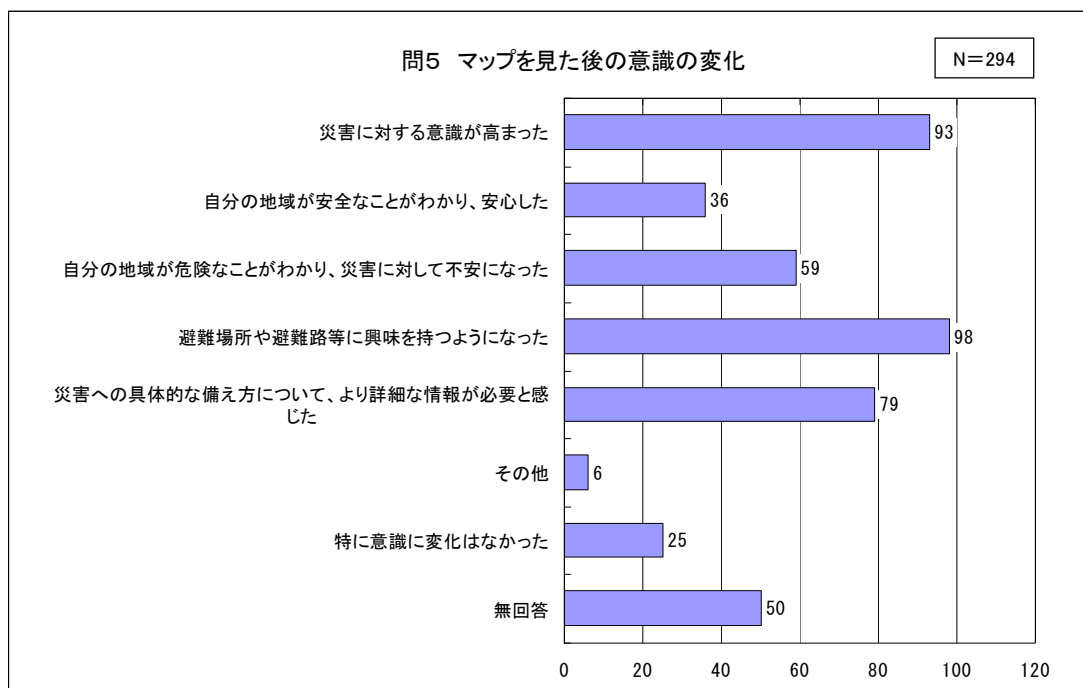
【主なわかりにくいと感じる内容や改善すると良い内容】

- 自分の地区・家の位置がよくわからない。
 - 地図の拡大や、地区別の地図があるとよい。
 - 危険度・想定される被害状況と避難との関係がわかりにくい。
 - マップについての周知があると良い（看板等）。
- 等

問5. マップを見た後の意識の変化

(複数回答)

- 「避難場所等への興味を持つようになった(約33%)」「災害に対する意識が高まった(約32%)」とする回答が多くなっており、「特に意識に変化はなかった」とする回答の約4倍となっている。
- 次いで、「具体的な備えに対する詳細情報が必要(約27%)」との回答が多くなっている。



マップを見た後の意識の変化	回答数	回答率
災害に対する意識が高まった	93	31.6%
自分の地域が安全なことがわかり、安心した	36	12.2%
自分の地域が危険なことがわかり、災害に対して不安になった	59	20.1%
避難場所や避難路等に興味を持つようになった	98	33.3%
災害への具体的な備え方について、より詳細な情報が必要と感じた	79	26.9%
その他	6	2.0%
特に意識に変化はなかった	25	8.5%
無回答	50	17.0%

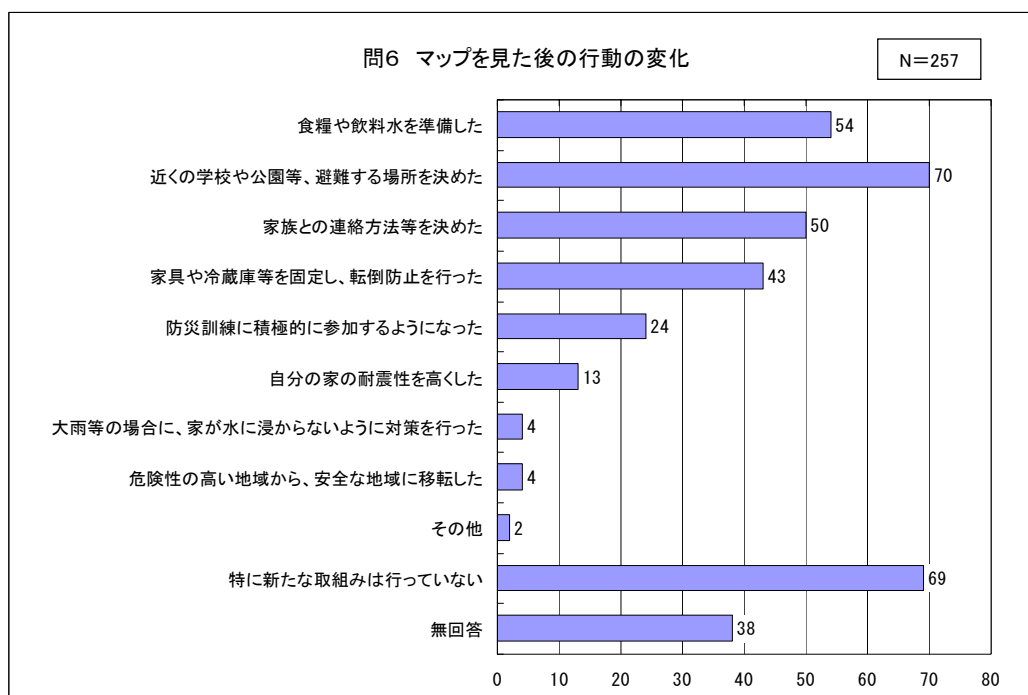
【その他の主なマップを見た後の意識の変化の内容】

- 避難経路を実際に確認した。
- 洪水以外の災害(液状化)の危険度の高さを認識した。 等

問6. マップを見た後の行動の変化

(複数回答)

- 「避難場所の設定 (約 27%)」を行ったとの回答が多い一方で、その概ね同数が「特に新たな取組みは行っていない (約 27%)」と回答している。
- 次いで、「食料等の準備 (約 21%)」「家族との連絡方法等の設定 (約 20%)」など、問3と同様に避難に関する意識が高い傾向がある。



マップを見た後の行動の変化	回答数	回答率
食糧や飲料水を準備した	54	21.0%
近くの学校や公園等、避難する場所を決めた	70	27.2%
家族との連絡方法等を決めた	50	19.5%
家具や冷蔵庫等を固定し、転倒防止を行った	43	16.7%
防災訓練に積極的に参加するようになった	24	9.3%
自分の家の耐震性を高めた	13	5.1%
大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策を行った	4	1.6%
危険性の高い地域から、安全な地域に移転した	4	1.6%
その他	2	0.8%
特に新たな取組みは行っていない	69	26.8%
無回答	38	14.8%

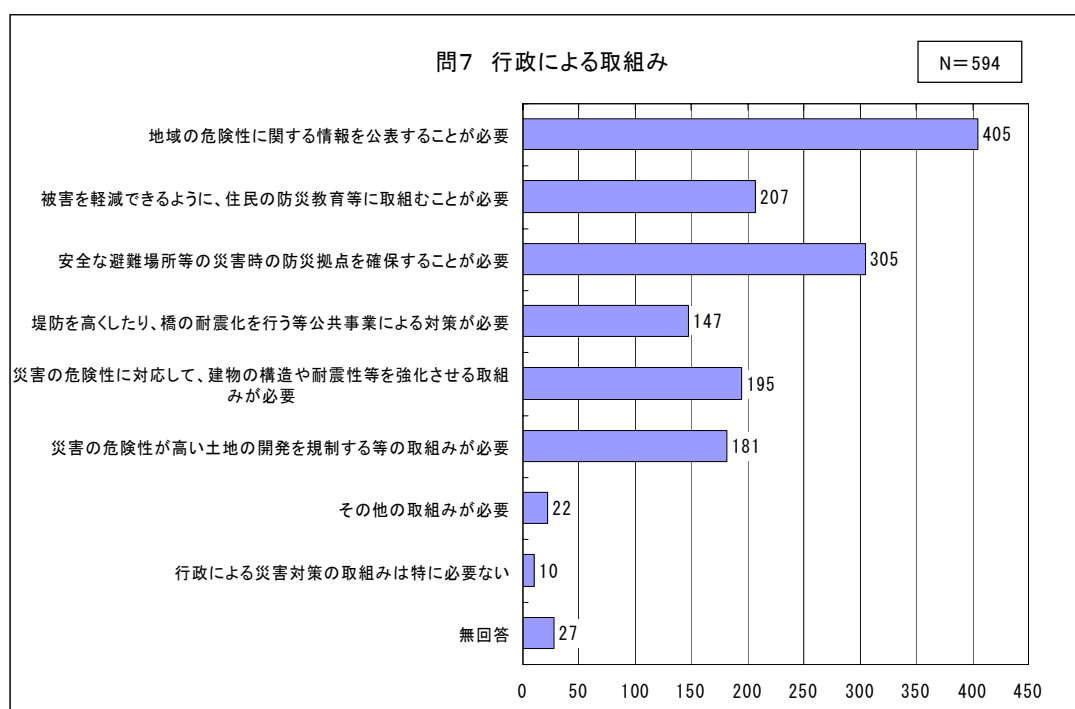
【その他の主なマップを見た後の行動の変化の内容】

- 防災知識の重要性を再確認した。
- 自宅近くに消火栓がないことから、その対策を行った。 等

問7. 行政による取組み

(複数回答)

- 「地域の危険性に関する情報の公表が必要」との回答が最も多く、全体の約7割（68%）を占めている。
- 次いで、「避難場所等の確保が必要（51%）」とする意見が多く、「防災教育（35%）」「建物の耐震性等の強化（約33%）」「土地の開発規制（約31%）」が必要との意見も多くなっている。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向となっている。



行政による取組み	回答数	回答率	最も重要
地域の危険性に関する情報を公表することが必要	405	68.2%	212
被害を軽減できるように、住民の防災教育等に取組むことが必要	207	34.8%	69
安全な避難場所等の災害時の防災拠点を確保することが必要	305	51.3%	133
堤防を高くしたり、橋の耐震化を行う等公共事業による対策が必要	147	24.7%	36
災害の危険性に対応して、建物の構造や耐震性等を強化させる取組みが必要	195	32.8%	60
災害の危険性が高い土地の開発を規制する等の取組みが必要	181	30.5%	30
その他の取組みが必要	22	3.7%	4
行政による災害対策の取組みは特に必要ない	10	1.7%	10
無回答	27	4.5%	40

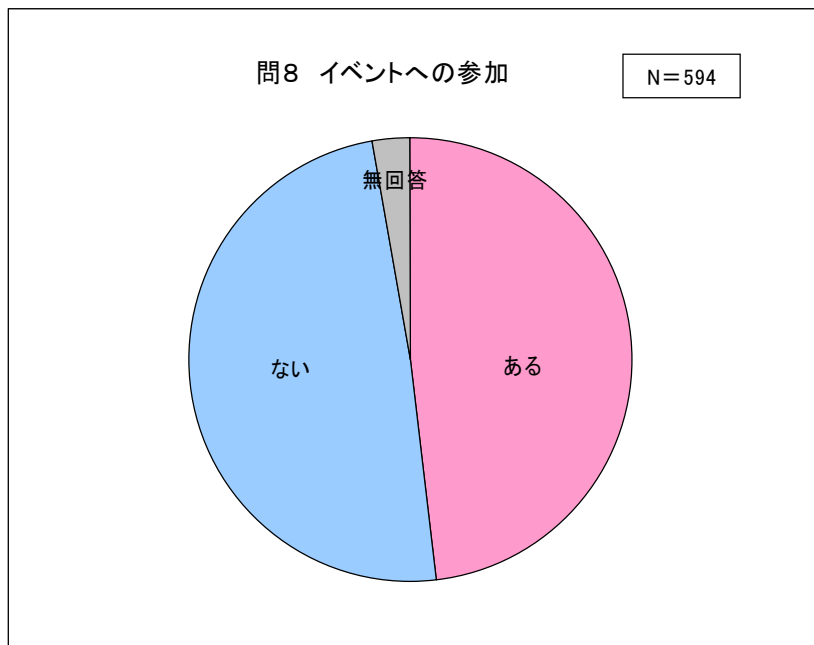
【その他の主な必要と考える行政による取組みの内容】

- 災害時に高齢者、障害者、子供をケアできるようなシステムづくり
- 災害後の支援の強化（備蓄品の確保、被災者の生活支援） 等

問8. イベントへの参加

(単一回答)

■全体の約5割（約48%）が、防災訓練等の安心・安全に関するイベントに参加したことがあると回答している。



イベントへの参加	回答数	回答率
ある	286	48.1%
ない	291	49.0%
無回答	17	2.9%

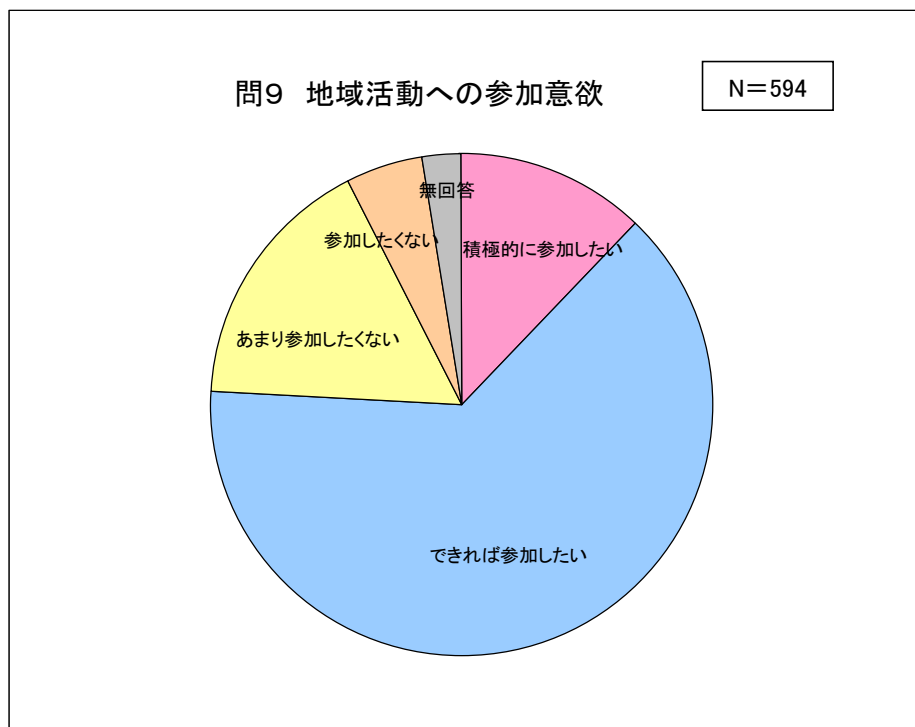
【主な参加したことのある安全・安心まちづくりに関するイベントの内容】

- 防災訓練（自治会、連合自治会等）
- 消防団による消防訓練
- 講演会（大学、コーディネーター等）

問9. 地域活動への参加意欲

(単一回答)

■地域が主体となった安全・安心まちづくりの活動について、全体の約3/4 (約76%)が参加したい意向(「積極的に参加」「できれば参加」)を示している。

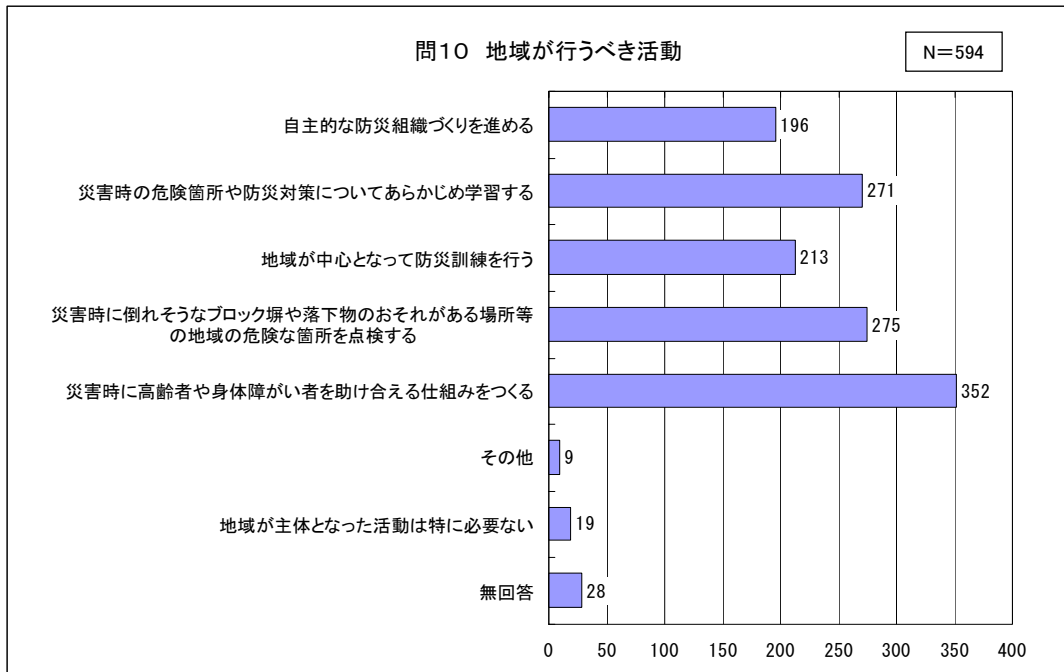


地域活動への参加意欲	回答数	回答率
積極的に参加したい	73	12.3%
できれば参加したい	378	63.6%
あまり参加したくない	98	16.5%
参加したくない	30	5.1%
無回答	15	2.5%

問 10. 地域が行うべき活動

(複数回答)

- 全体として、「地域が主体となった活動が必要ない」との意見は少なく（約3%）、安全・安心まちづくりに向けた地域活動の必要性が市民に高く認識されている。
- 活動としては、「災害時要援護者の支援」を行うべきとの意見が最も多い（約59%）。
- 次いで、「危険箇所の点検（約46%）」「危険箇所・防災対策の学習（約46%）」を行うべきとの意見が多く、半数近くが選択している。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向であるが、「危険箇所・防災対策の学習」を最重要とする意見が比較的多くなっている。



地域が行うべき活動	回答数	回答率	最も重要
自主的な防災組織づくりを進める	196	33.0%	76
災害時の危険箇所や防災対策についてあらかじめ学習する	271	45.6%	136
地域が中心となって防災訓練を行う	213	35.9%	52
災害時に倒れそうなブロック塀や落下物のおそれがある場所等の地域の危険な箇所を点検する	275	46.3%	100
災害時に高齢者や身体障がい者を助け合える仕組みをつくる	352	59.3%	164
その他	9	1.5%	5
地域が主体となった活動は特に必要ない	19	3.2%	19
無回答	28	4.7%	42

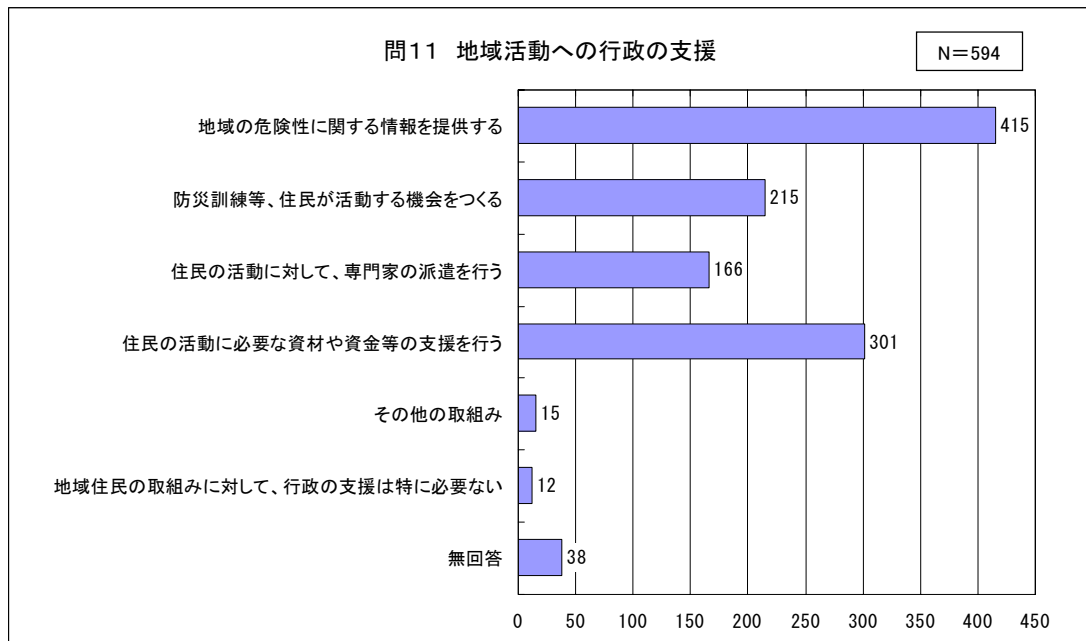
【その他の主な地域が行うべき活動の内容】

- 防災に限定しない近隣でコミュニケーションのとれる関係づくり
- 災害後に必要となる備品、救援物資の準備 等

問 11. 地域活動への行政の支援

(複数回答)

- 地域活動に対する行政支援として、「地域の危険性に関する情報提供」が必要との意見が最も多く、全体の約7割（約70%）が選択している。
- 次いで、「資材や資金等の支援（約51%）」「住民が活動する機会の創出（約36%）」が必要との意見が多くなっている。
- 最重要とする取組みについても、概ね上記と同様の傾向となっている。



地域活動への行政の支援	回答数	回答率	最も重要
地域の危険性に関する情報を提供する	415	69.9%	253
防災訓練等、住民が活動する機会をつくる	215	36.2%	74
住民の活動に対して、専門家の派遣を行う	166	27.9%	48
住民の活動に必要な資材や資金等の支援を行う	301	50.7%	153
その他の取組み	15	2.5%	9
地域住民の取組みに対して、行政の支援は特に必要ない	12	2.0%	12
無回答	38	6.4%	45

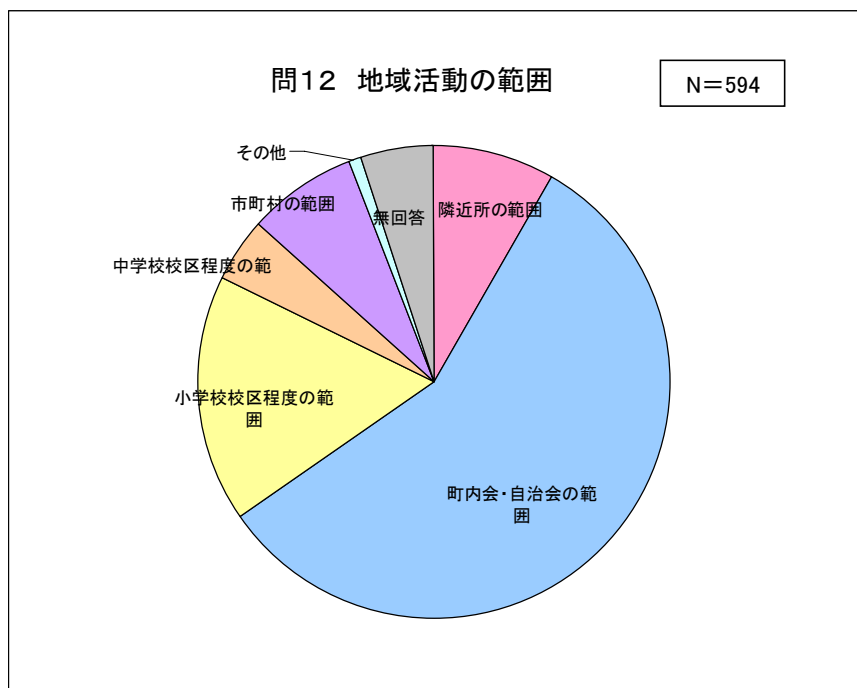
【その他の主な地域活動への行政の支援の内容】

- 防災意識向上のための支援（緊急時の優先順位付け、全戸アンケート調査、冊子配布等）
 - 地域住民が協調できる環境づくりのための支援（活動家の育成等）
 - 災害時の備蓄に対する支援（食料、飲料水、簡易トイレ等）
- 等

問 12. 地域活動の範囲

(単一回答)

- 地域活動の範囲として、「町内会・自治会」とする意見が多く、半数以上（約 57%）が選択している。
- 次いで、「小学校区程度（約 17%）」との意見が多くなっている。



地域活動の範囲	回答数	回答率
隣近所の範囲	49	8.2%
町内会・自治会の範囲	339	57.1%
小学校校区程度の範囲	101	17.0%
中学校校区程度の範囲	26	4.4%
市町村の範囲	45	7.6%
その他	4	0.7%
無回答	30	5.1%
合計	594	100.0%

【その他の地域の活動の範囲の内容】

- 地区市民センターの管轄する範囲 等

問 19. 自由意見

- 地域単位で主体的に活動や共助のできる体制づくりが必要との意見が見られる。
- 各市民の防災意識の向上を図るために、ハザードマップや避難所に関する情報をわかりやすく伝える必要があるとの意見が見られる。
- 避難所・避難経路の安全性の確保などの施設整備面での取組みの必要性についても意見が見られる。

今後の安全・安心まちづくりの取組みについて

■主な意見

<地域活動>

- ・防災訓練等により防災意識啓発への機会を多く定期的につくるとともに、自治会・団体等への支援をさらに進めていくことが必要。
- ・声の掛け合いや近所づきあいを通じて、高齢者・障害者等を近所が助け合える仕組みづくりが大切。

<情報提供・啓蒙活動>

- ・わかりやすいハザードマップや防災時の対応マニュアルの配布、及び防災イベントのインターネット・CATVによる周知などにより、行政が積極的に情報提供を行うことが必要。
- ・市民に防災に対する意識を高く持ってもらうための啓蒙活動を、行政が定期的に多く行っていくことが必要。
- ・子ども達に対する災害についての講習会や防災訓練が必要。

<施設整備面での対策>

- ・安全な避難路の確保が必要（道路の拡幅、橋脚の強化等）
- ・高潮堤防や耐震化等、必要最小限の施設整備は、行政が優先的に行うことが必要。
- ・行政（国・県・市）が保有する施設の安全性を高めるとともに、国・県・市の円滑な連絡体制・方法を整備することが必要。
- ・防犯のための街灯を多く設置することが必要。

等

4. アンケート票【四日市市版】

安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査

【アンケート調査ご協力をお願い】

安全で安心な暮らしのために、また、災害が発生した場合の被害を最小限とするためには、自然災害の危険性を理解し、効果的な対応策に取り組む必要があります。

そこで、自然災害の危険性に関する情報を、皆様がどのように受け取っているか、また、安全・安心まちづくりを進めていく上で、どのような考えをお持ちかについてご意見を伺い、今後の我が国における安全・安心まちづくりに向けた取組みに役立てることを目的として「安全・安心まちづくりに関する市民アンケート調査」を実施することと致しました。

今回ご回答をお願いしているのは、四日市市にお住まいの満20歳以上の皆様の中から無作為に選ばせて頂いた1,500人の方々です。アンケートにご記入いただいた内容は統計的に処理致しますので、ご回答頂いた方に不利益となることはございません。また、この調査は、国土交通省が八千代エンジニアリング株式会社に委託して実施していますが、他の目的に使用することは決してございません。

ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査の趣旨をご理解頂き、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成21年2月

国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域安全課

四日市市総務部 防災対策課

◆アンケートの記入にあたって

- ①ご自身のお考えや日常の行動についてお答えください。
- ②問1から順にお読み頂き、あてはまる選択項目を選んでください。質問には、「ひとつだけ選択」するものと「あてはまるものを全て選択」するものとがありますので、ご注意ください。
- ③ご回答頂いたアンケート調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、**平成21年2月20日(金)**までにご投函くださいますようお願いいたします。

◆調査主体

- ①調査実施主体：国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域安全課
担当 山本 TEL 03(5253)8111 (内線 32335)
：四日市市 総務部 防災対策課
担当 石田 TEL 059(354)8119
- ②調査委託会社：八千代エンジニアリング株式会社

◆問合せ先 アンケートに関するご質問等は、以下にお願いします。

調査担当 八千代エンジニアリング株式会社 地域計画部 (担当 高森・寺脇)
〒161-8575 東京都新宿区西落合 2-18-12
TEL 03(5906)0528 FAX 03(5906)0815

記入方法について特に記載がない場合は、該当する選択肢の番号に○をつけてください。

問1.【被災の経験】あなたは、これまで地震や洪水等の自然災害により、自宅が被害を受けたり、避難場所等に避難したことはありますか？（ひとつだけ選択）

1. 自宅が被害を受け、避難場所等に避難したことがある
2. 自宅は被害を受けなかったが、避難場所等に避難したことがある
3. 自宅は被害を受けたが、避難所等には避難しなかった
4. その他（具体的にご記入ください）
5. 経験したことはない

問2.【地域で不安とを感じる項目】あなたがお住まいの地域で自然災害が発生した場合に、不安と
感じることはありますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 建物が密集しており、災害時に建物が倒れる等の被害が発生しそうで不安だ
2. 大雨等の場合に、水があふれてしまうのではないかと不安だ
3. 道路がせまく、火災の燃え広がりや避難のしにくさ等が不安だ
4. 避難する建物の安全性（耐震性等）が不安だ
5. 避難できる場所が近くにないのが不安だ
6. 災害時に、どのように行動すればよいのかわからないので不安だ
7. その他（具体的にご記入ください）
8. 特に不安は感じていない

問3.【災害時に自分を守るための取組み】災害時に自分や家族の命を自ら守るために、現在、ど
のような取組みを行っていますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 食糧や飲料水を準備している
2. 近くの学校や公園等、避難する場所を決めている
3. 家族との連絡方法等を決めている
4. 家具や冷蔵庫等を固定し、転倒を防止している
5. 防災訓練に積極的に参加している
6. 自分の家の耐震性を高くしている
7. 大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策している
8. 危険性の高い地域から、安全な地域に移転した（移転の予定や検討中を含みます）
9. その他（具体的にご記入ください）
10. 特に取組みは行っていない

問3で複数の項目を選択された方は、【問3-1】をお答えください

問3-1. 選択された項目の中で、最も重要とを感じる項目をひとつだけ、右の四角枠
にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

ハザードマップ（洪水や地震等の自然災害について、想定される災害の状況や、避難に関する情報を整理した地図）について伺います。

問4.【マップのわかりやすさ】以下の災害のハザードマップを見て、自分の地域が危険かどうかわかりやすいと思いますか？あてはまる箇所に○をつけてください。

	ハザードマップの種類		
	地震	洪水	津波
1. わかりやすい	○	○	○
2. わかりにくい	○	○	○
3. 見たことがない	○	○	○

「2. わかりにくい」と感じた内容や改善するとよい内容等を具体的にご記入ください。

例) マップに示される危険度が、自分にとってどの程度危ないのかよくわからない
自分の家の位置が詳細にわかるとよい 等

問5.【マップを見た後の意識の変化】ハザードマップを見た後で、意識の変化はありましたか？（あてはまるものを全て選択）

1. 災害に対する意識が高まった

2. 自分の地域が安全なことがわかり、安心した

3. 自分の地域が危険なことがわかり、災害に対して不安になった

4. 避難場所や避難路等に興味を持つようになった

5. 災害への具体的な備え方について、より詳細な情報が必要と感じた

6. その他（具体的にご記入ください）

7. 特に意識に変化はなかった

問6.【マップを見た後の行動の変化】問3で回答した取組みの中で、ハザードマップを見た後に新たに行ったものはありますか？（あてはまるものを全て選択）

1. 食糧や飲料水を準備した

2. 近くの学校や公園等、避難する場所を決めた

3. 家族との連絡方法等を決めた

4. 家具や冷蔵庫等を固定し、転倒防止を行った

5. 防災訓練に積極的に参加するようになった

6. 自分の家の耐震性を高めた（耐震化の予定や検討中を含みます）

7. 大雨等の場合に、家が水に浸からないように対策を行った

8. 危険性の高い地域から、安全な地域に移転した（移転の予定や検討中を含みます）

9. その他（具体的にご記入ください）

10. 特に新たな取組みは行っていない

安全・安心まちづくりの進め方について伺います。

問7.【行政による取組み】災害に対する行政の取組みとして、どのような取組みが必要とお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

- 1. 地域の危険性に関する情報を公表することが必要
 - 2. 被害を軽減できるように、住民の防災教育等に取り組むことが必要
 - 3. 安全な避難場所等の災害時の防災拠点を確保することが必要
 - 4. 堤防を高くしたり、橋の耐震化を行う等公共事業による対策が必要
 - 5. 災害の危険性に対応して、建物の構造や耐震性等を強化させる取組みが必要
 - 6. 災害の危険性が高い土地の開発を規制する等の取組みが必要
 - 7. その他の取組みが必要（具体的にご記入ください）
8. 行政による災害対策の取組みは特に必要ない

問7で複数の項目を選択された方は、【問7-1】をお答えください

問7-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠
にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問8.【イベントへの参加】あなたは、今までに町内会、自治会等で行われた安全・安心まちづくりに関するイベント（防災訓練等）に参加したことはありますか？（ひとつだけ選択）

- 1. ある
- 2. ない

「1.ある」を選択された方は、【問8-1】をお答えください。

問8-1. それはどのような取組みですか。団体名や活動内容等を具体的にご記入ください。

問9.【地域活動への参加意欲】あなたは、今後、地域が主体となって安全・安心まちづくりの活動を行う場合、参加したいと思いますか？（ひとつだけ選択）

- 1. 積極的に参加したい
- 2. できれば参加したい
- 3. あまり参加したくない
- 4. 参加したくない

問 10.【地域が行うべき活動】安全・安心まちづくりに向けて、地域住民が協力し主体となつてどのような活動を行うべきとお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

1. 自主的な防災組織づくりを進める
2. 災害時の危険箇所や防災対策についてあらかじめ学習する
3. 地域が中心となつて防災訓練を行う
4. 災害時に倒れそうなブロック塀や落下物のおそれがある場所等の地域の危険な箇所を点検する
5. 災害時に高齢者や身体障がい者を助け合える仕組みをつくる
6. その他（具体的にご記入ください）
7. 地域が主体となつた活動は特に必要ない

問 10 で複数の項目を選択された方は、【問 10-1】をお答えください

問 10-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問 11.【地域活動への行政の支援】安全・安心まちづくりに向けた地域活動に対して、行政はどのような支援を行うべきとお考えですか？（あてはまるものを全て選択）

1. 地域の危険性に関する情報を提供する
2. 防災訓練等、住民が活動する機会をつくる
3. 住民の活動に対して、専門家の派遣を行う
4. 住民の活動に必要な資材や資金等の支援を行う
5. その他の取組み（具体的にご記入ください）
6. 地域住民の取組みに対して、行政の支援は特に必要ない

問 11 で複数の項目を選択された方は、【問 11-1】をお答えください

問 11-1. 選択された項目の中で、最も重要と感じる項目をひとつだけ、右の四角枠にご記入ください。（ひとつだけ選択）

番

問 12.【地域活動の範囲】安全・安心まちづくりに向けた地域活動を行う際に、あなたがイメージする「地域」は、どの程度の範囲ですか？（ひとつだけ選択）

1. 隣近所の範囲	2. 町内会・自治会の範囲
3. 小学校校区程度の範囲	4. 中学校校区程度の範囲
5. 市町村の範囲	6. その他

あなたのことについて伺います。

問 13. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問 14. あなたの年齢をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | |
|--------|----------|
| 1. 20代 | 2. 30代 |
| 3. 40代 | 4. 50代 |
| 5. 60代 | 6. 70代以上 |

問 15. あなたのご職業をお答えください。(ひとつだけ選択)

- | | | |
|--------------|----------|--------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 自営業 |
| 4. パート・アルバイト | 5. 主婦 | 6. 学生 |
| 7. 無職 | 8. その他 [|] |

問 16. あなたのお住まいについてお答えください。(直接ご記入ください)

四日市市 () 町・大字

問 17. 現在あなたと一緒に住まいのご家族について伺います。(ひとつだけ選択)

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 単身(一人世帯) | 2. 夫婦のみ |
| 3. 二世帯世帯 | 4. 三世帯世帯 |
| 5. その他 [|] |

問 18. あなたは現在住まいの地域にどのくらい住んでいますか。(ひとつだけ選択)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年以上5年未満 |
| 3. 5年以上10年未満 | 4. 10年以上20年未満 |
| 5. 20年以上30年未満 | 6. 30年以上 |

問 19. 今後の安全・安心まちづくりの取組みについて、ご意見がございましたらご自由にご記入ください。

--

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

ご回答頂いたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成21年2月20日(金)までにご投函くださいますようお願いいたします。